

公開講座ダイジェスト2019

跡見学園女子大学公開講座の記録



ATOMI
UNIVERSITY

公開講座ダイジェスト 2019 跡見学園女子大学公開講座の記録

刊行にあたって

跡見学園女子大学は一昨年心理学部を創設し、4学部2大学院研究科からなる中規模女子大学となった。これに伴い、多様な分野をカバーする教員の存在が、今年度の公開講座で従来になかった企画を可能にしたともいえる。

大学はアカデミックな知を地域社会に還元し、その交流を通じて教育や研究の内容をより豊かなものにしていかねばならない。今年度は、1) 産官学連携の成功事例に学ぶ、2) 都市のコミュニティを考える、3) 世界遺産（産業遺産）と観光、4) 天皇と皇室——といった特集講座と従来の情報系の基礎や英語、中国語、朝鮮・韓国語会話を学ぶ講座が展開された。

東日本大震災後、都市防災に対応すべく、地域コミュニティの検討、そして防災教育の必要性が叫ばれている。そこにおいては、「町内会・自治会の現状はどのようになっているのか」、「コミュニティの防災力を高めるためにはどうすべきか」、そして高層マンションが増加する今日、「新旧住民がつくる街の形とはどのようなものか」といった現実的かつ実践的なテーマへの政策的提言が求められている。講義は、本学観光コミュニティ学部教員が担当した。今回の公開講座参加者には、地域住民だけでなく行政の担当者も参加しており、今後、どうすべきかといった点を巡って、公開講座終了後も活発な議論と交流が行われていたとのことである。

跡見学園女子大学は、従来の公開講座をベースにしながらも、地域社会の要請、また時代の要請に沿って多様な内容の企画を提供していく必要がある。昨年は、新天皇の即位に伴って天皇と皇室に対する関心が高まっていた。それに伴い教養コース「天皇と皇族」を設定し、「現代と幕末までの即位儀礼」、「近代の皇后」、「皇極一自らの王統を作りだした古代の女帝」といった講座も展開した。講義は、本学文学部教員が主に担当した。地域や時代が要請する特殊テーマであっても、本学の教員を中心に公開講座の態勢が準備できることを嬉しく思っている。他方で、次年度はさらに魅力的なテーマを模索し、公開講座の一層の進化を図るべく努力していきたい所存である。

令和2年3月

跡見学園女子大学

学長 笠原清志

CONTENTS

	刊行にあたって	1
	跡見学園女子大学 学長 笠原 清志	
	春期教養コース（新座キャンパス） 産官学連携の成功事例に学ぶ	3
	1. インターンシップを活用した産学連携	
	本学マネジメント学部マネジメント学科教授 山澤 成康	
	2. PBL（問題解決型授業）を活用したマーケティング提案事例	4
	元本学マネジメント学部マネジメント学科教授 山田 満	
	3. 企業と連携した商品開発	
	本学マネジメント学部マネジメント学科准教授 許 伸江	
	春期教養コース（文京キャンパス） 都市のコミュニティを考える	6
	1. 町内会・自治会のいまー子ども食堂や学習支援のとりくみー	
	本学観光コミュニティ学部コミュニティデザイン学科教授 靄 理恵子	
	2. コミュニティの防災力を高めるー首都直下地震に備えてー	7
	本学観光コミュニティ学部コミュニティデザイン学科教授 鍵屋 一	
	3. 新旧住民がつくる街のかたちー高層マンションが増加する街ー	
	本学観光コミュニティ学部コミュニティデザイン学科教授 佐野 美智子	
	秋期教養コース（新座キャンパス） 世界遺産（産業遺産）と観光	9
	1. ドイツの産業遺産と観光	
	元本学観光コミュニティ学部観光デザイン学科教授 種田 明	
	2. イタリアの世界遺産と観光	10
	本学観光コミュニティ学部観光デザイン学科准教授 河村 英和	
	3. 百舌鳥・古市古墳群	11
	本学観光コミュニティ学部観光デザイン学科教授 鶴田 雅昭	
	秋期教養コース（文京キャンパス） 天皇と皇族	12
	1. 現代と幕末までの即位儀礼	
	本学文学部人文学科教授 三谷 博	
	2. 近代の皇后	
	本学文学部人文学科准教授 真辺 美佐	
	3. 皇極ー自らの王統を作りだした古代の女帝	13
	帝京大学名誉教授 義江 明子	
	語学コース	14
	英会話	責任講師：本学文学部人文学科准教授 峰松 和子
	中国語会話	責任講師：本学文学部人文学科准教授 安本 真弓
	朝鮮・韓国語会話	責任講師：本学文学部コミュニケーション文化学科講師 吉田 さち
	パソコンコース	春期（新座）講師：本学文学部人文学科講師 長谷川 幸代
		秋期（文京）講師：本学兼任教員 柴田 徹
	受講生からのレポート	21
	資料	37

公開講座春期教養コース（新座キャンパス）
産官学連携の成功事例に学ぶ
2019年5月18日～6月1日（毎週土曜日）〈全3回〉
〈講座責任講師〉本学マネジメント学部マネジメント学科 山澤 成康

マネジメント学部では「産官学連携」のプロジェクトに多数取り組んでおり、成功事例も数多くある。産官学連携の代表的な例はアカデミック・インターンシップである。2年次必修のインターンシップを通じて、企業や地方公共団体、国会議員事務所などと連携している。マネジメント学部創設から連綿と続いているもので、20年近く実施している。また、PBL（問題解決型授業）の一環として、企業や地方自治体と連携して新商品の開発などを行っている。

こうした成果を地域貢献として地域の方々へ紹介しようというのが今回の公開講座の意図である。アンケートの結果をみると、いずれの回も、「内容について興味や関心が深まった」との回答が95%を超えており、その目的は十分達せられたと思う。

アンケートによると、受講者のうち40代～50代の割合が約4割、60代以上が約5割で、高齢者層の受講者が多いことがわかる。自宅からの所要時間では、1時間以内という回答が6割を占める。しかし、1時間以上90分以内という受講者も4割あり、比較的遠方から通っている受講者がいることがわかる。その意味では大学沿線だけでなく、さらに幅広い層に広報する意味があるかもしれない。

第1回はインターンシップについて、第2回と第3回は企業と連携した課題解決がテーマだった。各講義の内容は地域にとどまらず、学生や一般企業の方々など幅広い層に興味を持ってもらう話題だっただけに、聴講者が地域の方々に限られたのはもったいないという気がした。学生の参加も少しはあったが、会場に余裕があったためもう少し学生に参加を促せばよかった。

講師からは、聴衆が興味を持って聞いてくれており、質問も活発に行われたとの報告があり、公開講座としてはうまくいったのではないかと思う。

なお、講師の一人から公開講座の広報の方法について注文があった。ホームページの画面から直接公開講座の情報を得られる画面が必要だとの指摘である。

〈第1回 5月18日〉
インターンシップを活用した産学連携
本学マネジメント学部マネジメント学科教授
山澤 成康

マネジメント学部が創設以来行っているアカデミック・インターンシップを中心に講義した。まず、日本におけるインターンシップ全般の動向について説明した。インターンシップを実施する大学が増えていること、文部科学省は大学でのインターンシップを高度人材育成のための手段と位置付けていること——などである。文部科学省が優れたインターンシップを行う事例を表彰する制度が始まったことも紹介した。

次に企業からみたインターンシップについて紹介した。インターンシップを実施する企業が2018年度で95.9%にのぼり、ほぼすべての企業でインターンシップを行っている現状を説明した。インターンシップを実施する目的は採用活動の在り方が変わるに連れて変化しており、以前の目的は「社会貢献」や「業界への理解促進」だったが、最近では採用を意識した「学生の能力の見極め」の比重が高まっていることを紹介した。企業の採用活動は年々変化しており、最近では4年生の4月に説明会の解禁、6月から採用活動解禁となっている。就活採用時期が後ろにずれて3年次には採用活動ができない状況となっており、その代りにインターンシップを行っている企業が増えていることを説明した。最近増えているインターンシップは1日だけのものが多く、本来の意味でのインターン

シップの役割からかい離していることも指摘した。最後に学生側からみたインターンシップの状況について説明した。学生がインターンシップを行う目的は、仕事の理解や業界への理解を促進することへの比重が大きく、採用に直結すると考えている学生は1割程度しかいないことがわかった。山澤ゼミの在学学生・卒業生へ行ったアンケート結果をみると、「インターンシップが就職活動に役立った」という比率はそれほど高くないが、「インターンシップ後の授業への取組みや問題意識が高まった」という回答が多く、就職への貢献というよりは、学力向上へのインセンティブとなっていることがわかった。本講義の受講者は地域の高齢者が多いが、マネジメント学部1年生も参加した。質疑応答は5分程度にしたが、10分くらいとっておいてもよかった。

〈第2回 5月25日〉

PBL(問題解決型授業)を活用したマーケティング提案事例

元本学マネジメント学部マネジメント学科教授
山田 満

本年5月25日マネジメント学部公開講座春期教養コースの第2弾として掲題のテーマで講演を行った。PBL (Project Based Learning) は一般的に問題(または課題)解決型学習と訳され、知識の暗記の様な受動的な学習ではなく学生が主体的に問題を発見し課題解決する能力を養うアクティブラーニングの1つで、学生の消費者意識や若者らしい視点から企業や自治体などにソリューションを提言する実践型のゼミ活動や授業である。筆者は前職の広告代理店の時代から広告主に対してマーケティングやコミュニケーション上の課題の解決を提案する活動を実務として経験してきたこともあり、前任の順天堂大学スポーツ健康科学部の担当ゼミでもPBLを意識せずにゼミ活動の一環として色々な企業に対して実践していた。本学に着任以降4年間でゼミや授業を通して27のプロジェクトを実施した。代表的な例をあげると、①

北海道のワイナリーに対してレストランのメニューや土産品の開発②大手ホームセンターに対してDIY女子を拡大することによる市場の活性化③本学の学長に対し受験生増加策やブランド育成策④埼玉県庁に対し訪日外国人の誘致策や県の魅力度向上策⑤草加市皮革産業の振興策など実に多彩な提言活動を展開し、実際に提案が採用されることもあった。こうしたPBLの効果は企業側にとっては若い女性視点からの新鮮でユニークな提案を企業活動に活かせること、学生側にとっては主体的なグループ活動の体験や企業経営者の前でプレゼンを経験することにより「社会人基礎力」を体得することができるなど双方にとって大きなメリットがある。またこうした実践経験は就職活動において採用担当者に即戦力として評価され、多くの担当ゼミ生は大手企業や志望企業に採用されるという副次効果も生んだ。講義では具体的な事例を紹介しながら、PBL成功のための課題の設定の仕方、準備作業や討議の進め方、効果的なプレゼン法など体験を通して把握した重要なポイントなどを整理して解説した。本学退職後もPBL活動はマネジメント学部の先生方に引き継がれ、学部教育の重要な柱の一つになっていることは大変喜ばしいことである。

〈第3回 6月1日〉

企業と連携した商品開発

本学マネジメント学部マネジメント学科准教授
許 伸江

教養コースの最終回として、「企業と連携した商品開発」のタイトルで下記のような流れで講座を行った。1. 自己紹介&ゼミ紹介、2. MATAGIプロジェクトとは、3. 跡見MATAGIチームの紹介、4. 企業と連携した商品開発(5年間の取組み)、5. 学生のコメント、6. まとめである。はじめに、担当するゼミの活動について、2年生、3年生、4年生がそれぞれ、外部の企業や団体とどのように関わってきているか、事例をあげて説明をした。台東区のまちづくりイベント「モノマチ」

への参加や、墨田区のオープンファクトリーイベント「スミファ」への参加、そして今回主に説明をした「MATAGI プロジェクト」について、写真を交えて紹介した。

講座の中心テーマとしては、商品開発を実現してきた5年間のあゆみを詳細に説明した。2014年度：名刺入れ、2015年度：ペンホルダー、2016年度：がま口&アクセサリー、2017年度：手鏡、キーホルダー、ペンケース、眼鏡ケース、2018年度：定期券ケースについて、それぞれどのようなプロセスを経て、商品開発を実現してきたかについて説明した。

まとめとして、企業と学生が連携することのメリットについて考察を加えた。学生側、企業側、そして産地側からのそれぞれの見解を示した。その上で、課題として、収益性の確保や授業運営との一貫性、企業との協力の在り方などについて提示した。最後の質疑応答では活発な意見交換がなされた。

なお、休み時間には、これまで商品開発した革小物をいくつか展示したところ、聴講生に大変興味を持って頂き、質問や感想、意見などを多く頂戴した。

公開講座春期教養コース（文京キャンパス）
都市のコミュニティを考える
2019年6月22日～7月6日（毎週土曜日）〈全3回〉
〈講座責任講師〉 本学観光コミュニティ学部コミュニティデザイン学科 鍵屋 一

公開講座「春期教養コース」は「都市のコミュニティを考える」と題して観光コミュニティ学部コミュニティデザイン学科教員が3回シリーズで実施した。町内会、自治会の新たな取り組み、首都直下地震への備え、新旧住民がつくる新しいまちの形など、都市部におけるコミュニティの最先端の課題について講義し、受講者とともに考えるものである。

第1回は6月22日（土）、靄理恵子教授が「町内会・自治会のいまー子ども食堂や学習支援のとりくみー」について講義した。

第2回は6月29日（土）、鍵屋一教授が「コミュニティの防災力を高めるー首都直下地震に備えてー」について講義した。

第3回は、7月6日（土）、佐野美智子教授が「新旧住民がつくる街のかたちー高層マンションが増加する街ー」について講義した。

それぞれの講義概要については、各教員から別に報告されている。

この講座への受講者のアンケートは次のような結果となった。

Q) この講座を受講して、内容について興味や関心が深まりましたか。

A) 全体で94.3%が深まったと回答

Q) 今後、また本学の公開講座を受講したいと思いますか。

A) 全体で97.2%が受講したいと回答

この結果から、本講座に関する受講生の満足度、次回への受講意欲が極めて高いことが示された。「都市のコミュニティを考える」をメインテーマとした本講座の狙いは達成されたと思われる。今後も機会があれば、「都市のコミュニティを考える」の続編で、都市計画、ジェンダー論、環境社会学、地域社会学、経済学等の立場から講座を実施したい。

〈第1回 6月22日〉

町内会・自治会のいま

ー子ども食堂や学習支援のとりくみー

本学観光コミュニティ学部コミュニティデザイン学科

教授 靄理恵子

現代日本社会において、町内会・自治会に求められる役割はどのようなものか。子どもから高齢者まで、障害の有無・年齢・ジェンダー・国籍等の違いを超えて、それぞれに暮らしやすい地域や社会をどう創るか。子ども食堂や学習支援のとりくみを例に具体的に考えてみた。

コミュニティは、場所性と共同性がズレたり重なったりしながら存在している。場所性とは、地域を基底的な構成要因として成立していること、共同性は、地域に根ざすとは限らない、仲間関係をいう。今日の話は、地域社会に根ざした共同組織としてのコミュニティである。

町内会・自治会は、地域社会に根ざした共同組織としてのコミュニティの典型で、2000年前後から都市部に限らず農山漁村部でも、暮らしを根底から支える地域住民組織として注目されてきた。地域福祉と防災、この2つの面からの期待が大きい。

2000年4月から始まった介護保険制度は、「施設から在宅へ」、「権利としての福祉」と既存の考え方を大きく転換させていった。大都市に偏りはあるが、NPO法人の誕生・活躍と共に、町内会にも注目が集まっている。町内会・自治会は、市町村の社会福祉協議会からの働きかけで、小地域福祉ネットワークの担い手の1つとして位置づけられている。

もう1つは、防災の観点からの着目である。1995年の阪神淡路大震災から、2004年新潟県中越地震、2011年東日本大震災、2016年熊本地震・・・と相

次ぐ災害に対して、地域住民組織の見直しや再構築が求められるようになった。

こうした中、2000年代に入り社会問題として顕在化してきた「格差社会」や「子どもの貧困」は、その改善や解決に向けて地域住民を動かしていく。それが「こども食堂」の広がりや学習支援の取り組みである。おたがいさまの精神で、あまり気負わず、無理をせず、人々が集い、協力し、食堂が始まり運営されている。身近な所での身近な人々の活動する姿から、町内会・自治会の役割を再認識する人も多い。

〈第2回 6月29日〉

コミュニティの防災力を高める

―首都直下地震に備えて―

本学観光コミュニティ学部コミュニティデザイン学科

教授 鍵屋 一

2018年度の災害を振り返りながら、地震ではブロック塀や家具の下敷きにならない、水害では早期避難が重要などの教訓を伝えた。その上で、過去の地震史からみて首都直下地震は切迫しており、その被害は国難と言えるほど巨大になる可能性を示した。しかし、国民も行政も企業も備えは不十分である。その根本原因は「正常化の偏見」、すなわち「自分はきっと大丈夫だ」という根拠のない楽観的心理にあることを説明した。そこで、防災に関しては教育と訓練を行い、正常化の偏見を克服して対策を取る必要性を訴えた。また、社会の脆弱性が増していることを、たとえば75歳以上人口が24年で2.4倍に増えているのに対し、地域のつながりが希薄化し、自治体職員が16%減少していることをデータで示した。その上で具体的な対策として3点を挙げた。第1に、住宅の耐震化を進めることである。地震による人的被害の大小は住宅の耐震性でほぼ決まるからである。現在の耐震化支援策は、持ち家で高所得者向けに補助金を出すだけであり、賃貸住宅の耐震性公表、木造賃貸住宅を防災住宅に変える支援方を検討すべきとした。第2にマンションでの生活継続である。

マンションは生活維持のためにトイレ、水、エレベータ停止対策が不可欠であり、マンション内部でのコミュニティがあれば多くはカバーできることを事例とともに示した。第3に、高齢者障がい者等の災害関連死の防止である。コミュニティの見守り機能が低下することで、高齢者障がい者等が厳しい状況に陥る事例を示し、福祉事業者とコミュニティが連携して支えることの重要性を提起した。災害時にコミュニティが機能することは、平時の活発な地域活動を促し、人々のつながりや幸福感を高めることを訴えた。

〈第3回 7月6日〉

新旧住民がつくる街のかたち

―高層マンションが増加する街―

本学観光コミュニティ学部コミュニティデザイン学科

教授 佐野 美智子

東京都心部では高層マンションの増加が続いている。マンション入居者には、子育て中の若い世帯が多い。一方、地域に古くから住む人々では高齢化が進む。新旧住民の年齢差や世代差は、地域のあり方をどのように変えているのだろうか。2018年夏に本学の「社会調査実習」授業の一環として学生が実施した「大塚3丁目地域満足度調査」のアンケートとインタビューの結果を材料に、都心部における新旧住民の混交が作りあげる街のかたちについて考えた。

まず、人口の都心回帰の実態について紹介した。1980年代後半からの地価高騰により都心地域では人口が流出し社会問題となったが、その後、建築基準法改正による規制緩和などで高層マンションが増え、人口の都心回帰につながった。最近20年間の文京区の年齢別人口変化を見ると、30～40歳代と小学生以下の子供の増加が目立ち、子育て世帯の転入が盛んだったことがわかる。

次に、若い子育て世帯を中心とした新住民の増加が地域に与える影響について、アンケート結果をもとに考えた。居住歴5年未満の「新住民」と、代々住む「旧住民」を比較したところ、近所付き

合いの〈適度な距離〉については新旧住民で考えが異なるが、新住民は旧住民以上に満足して地域に暮らしている様子がうかがえた。

続いて、「望ましい街」について尋ねたインタビュー結果を以下の2点にまとめて紹介した。①多様な属性を持ち、多様な価値観やライフスタイルを持つ人々の共生という〈多様性〉が、街の〈活気〉や〈安心〉を生み出し、「望ましい街」が形成されること。②「望ましい街」を支えるのは、ソフト面の社会関係資本（近所付き合いなど）と、ハード面の社会資本（街の景観を形作る住宅や公園など）であること。

最後に、社会関係資本を「結束型」と「橋渡し型」に分類してみると、開放的で弱い紐帯の社会的ネットワークを特徴とする「橋渡し型」社会関係資本は、異なる背景を持つ人々を結びつける多様性の高い資源となることについて説明した。

公開講座秋期教養コース（新座キャンパス）

世界遺産（産業遺産）と観光

2019年10月19日・26日・11月16日（土曜日）〈全3回〉

〈講座責任講師〉 本学観光コミュニティ学部観光デザイン学科教授 鶴田 雅昭

秋学期の公開講座は、「世界遺産と観光」というテーマのもとに、各報告者が研究課題としているドイツ・イタリア・日本における世界遺産とその観光に対する貢献、あるいは地域と観光の視点から講座を行った。

初回の講座、「ドイツの世界遺産と観光」はロマンチック街道やメルヘン街道のほか、近年EUやドイツが観光資源としてその活用に力をいれている「ヨーロッパ産業遺産の道」などの街道観光、今年8月に行った現地調査にもとづく、ドイツの産業遺産を代表するルール工業地帯の複合遺産としてエッセンのツォルフェライン炭鉱業遺産群の事例や、ボーフムの鉄道博物館などを事例としたほか、鉄鋳物工場を博物館に、ラベ川港倉庫ビルからホテルへ、紡績工場や上水塔の集合住宅化など、産業遺産を再活用する施設について解説している。なお、初回の講座は台風のため11月に順延となり、16日に実施された。

第2回目は、世界遺産の登録件数ではトップの座を続けるイタリアの世界遺産について、都市や地域における世界遺産登録の年代とその傾向、都市や地域の登録前と登録後の変化、ローマやベネツィアを事例とする芸術作品や文学作品および、観光という視点から見たに各都市や地域の歴史およびその観光地化の事例として、ナポリ、アマルフィ海岸、ポンペイにおける世界遺産登録と観光の関係などを解説したものである。

第3回目は、昨年7月に登録された日本の世界遺産のなかでは一番新しい百舌鳥・古市古墳群について、世界遺産認定に至る過程、ICOMOSの評価と保管・管理に関する指摘、そこで見られる古墳の形態、主要な古墳に祀られている天皇や側近および従者を解説するとともに、両古墳群位置から見た日本最古の街道と言われている竹内街道と関係について解説したものである。

三名の報告者は日本 ICOMOS の会員であるところが共通している。このうち第1回報告者の種田は産業考古学や博物館学の分野で日本を代表する研究者の一人であり、経済史や技術史の視点から主にドイツの産業史を考察している。今一人の第2回報告者はイタリア・ナポリの大学に留学して建築史を学ばれ学位を取得した、イタリアとその周辺地域のホテル建築観光史を考察する研究者であり、研究課題と報告テーマとの関係が深いことから質の高いものであったと評価できる。

〈第1回 11月16日〉

※10月12日予定のところ、台風のため延期

ドイツの産業遺産と観光

元本学観光コミュニティ学部

観光デザイン学科教授 種田 明

ドイツに世界遺産は46ある。登録数ランキングでは第4位(日本は23で12位)となっている。(2019年7月) 他方でドイツには観光と文化に結び付いた“観光街道”(1927年ドイツ・アルペン街道を嚆矢として約150)があり、「ロマンチック街道」「ワイン街道」「メルヘン街道」等は日本にもよく知られている。本講では、世界遺産と観光(街道)に新たに加わった ERIH (エリー:“ヨーロッパ産業遺産の道”、EUが2005年開始)、この3つを紹介し、世界遺産(とくに産業遺産)のもう一つ別の見方・楽しみ方を解説した。

ドイツの観光(政策)は地方分散型であり、各地方自治体は政府観光局と連携して国内外の集客に努めている。この分散型観光の起点となったのは「ロマンチック街道」の設定・命名(1950年スタート)であった。1964年日本の海外渡航自由化以降、訪独日本人観光客獲得のため、ドイツ政府観光局は女性誌『nonno』(1976/2通巻No.107)と

組みかつての交易路や田舎町を「ロマンチック街道」として売り出した。このプロモーションは大成功で、その後大人気となりパッケージ・ツアーの中でも今日なお衰えぬ隆盛を謳歌している。

産業遺産はドイツに17ある。産業遺産が注目される契機となったのは1994年ユネスコの「グローバル戦略」制定であった。世界遺産登録偏重を正し、比較研究が進んでいる‘産業遺産’‘20世紀の建築’‘文化的景観’の3種別を登録対象として積極的にアプローチしてゆくものである。EUによるERIHの発足(2005/12)はその延長上にある。ドイツでは1935年マチョス/リントナー『技術的文化記念物』が刊行され、世界遺産に「バウハウス(略記)」(1996)・「エッセンのツォルフライン炭鉱産業遺産群」(2001:本年8月調査の一端を映像で紹介)等があり、人口に膾炙したものとなっている。

ERIHは45カ国1,315サイト(うち約90がアンカーポイント、地域ルート19、テーマルート13)あり、産業遺産評価上昇と観光振興を目的としている。ルートから世界遺産を見るもよし、あるいは産業遺産の利活用:港湾倉庫を4☆ホテルに、工場を博物館/オフィスビル/集合住宅にしたのを見るのも、もう一つ別の楽しみ方なのである。

〈第2回 10月19日〉

イタリアの世界遺産と観光

本学観光コミュニティ学部

観光デザイン学科准教授 河村 英和

今もイタリアはユネスコ世界遺産登録件数のトップの座を保持している。1978年に初登録された12件の中にイタリアのものはなかったが、翌年には北イタリアの新石器時代の岩絵群が選出され、80年代は主要な町(ローマ、フィレンツェ、ヴェネツィア)の「歴史地区」が登録されてゆく。これらの町は登録の有無にかかわらず、もともと世界的に有名な観光地なので、登録による観光客の急増にさほど影響を与えていない。18世紀に最盛期を迎えた大陸周遊旅行(グランドツアー)の目的のひとつは古典教養を深めることで、古代遺跡

・古代彫刻の見学が必須だったためローマは最重要目的地だ。交易で栄えビザンチンからロココまで妖艷な文化花開くヴェネツィアも外すことはできなかった。そのためこの二つの町は文学や映画の舞台になることもあまりに多く、その建築は世界各地で模倣された。人気のデスティネーションであるがゆえの現象だろう。ヴェネツィア旅行経験を通して生まれた音楽も枚挙にいとまなく、講座途中の休憩時間は、メンデルスゾーンピアノ曲《ヴェネツィアの舟歌》と姉ファニー作曲のリート《ゴンドラの歌》を流した。一方、中世の町フィレンツェは、古典主義の18世紀までは旅行先として重要視されておらず、19世紀に中世芸術への評価が高まったことで人気が急上昇し、フィレンツェの中世をモチーフにした文芸作品も増えていったが、有名な映画のロケ地にフィレンツェが選ばれるのは世界遺産登録後に多い。

1990年代の登録は、南イタリアのものが目白押しとなる。貧しい人が住む洞穴住居群が「イタリアの国家的恥部」と言われていた町マテーラが登録され、ナポリ、アルベロベッロ、アマルフィ海岸、ポンペイ・エルコラーノなどが続々と世界遺産となった。ナポリは近郊に古代遺跡が多く、かつては王国の首都でオペラの中心地でもあったため、グランドツーリストの必須訪問地だったが、19世紀の国家統一によって一地方都市に転落、貧困と反社会勢力(カモッラ)が渦巻く治安の悪さから観光客が避ける町となっていた。ナポリの治安が改善されたのは1994年のG7からで、その翌年に世界遺産登録も果たしたものの、ナポリを訪れる観光客が登録後すぐに増えたわけではなく、つい最近まで日本のツアー客は町を歩かせてもらえない「車窓観光」がメインだった。それに変化の兆しがでてきたのは近年のSNSによる情報拡散とLCCがもたらしたオーバーツーリズムによる。インスタ映えするアート地下鉄や低所得層住宅の壁に描かれたストリートアートが評判になり、世界遺産の対象とならない新しい観光資源が注目されるようになってきたのだ。

〈第3回 10月26日〉

百舌鳥・古市古墳群

本学観光コミュニティ学部

観光デザイン学科教授 鶴田 雅昭

百舌鳥・古市古墳群は昨年7月に登録が認められた日本で一番新しい世界遺産であり、大阪府の堺エリア23基と羽曳野・藤井寺エリア26基の48基をもって構成されている。この百舌鳥・古市古墳群うち堺エリアの14基および羽曳野・藤井寺エリア14基は第14代仲哀天皇から第19代允恭天皇に至る6人の天皇とその親族および従者の陵墓であるが、このうち6人の天皇の陵墓は宮内庁によって維持・管理されている。その反面で、堺エリアの9基と羽曳野・藤井寺エリアの12基は埋葬者が明らかにされていない。古墳の形態をもとに各エリアの陵墓を分類すると、堺エリアは円墳5基、方墳3基、帆立貝形古墳7基、前方後円墳8基と四つの形態すべてが見られるが、羽曳野・藤井寺エリアでは、円墳2基、方墳11基、前方後円墳13基の三つの形態だけで、帆立貝形古墳は見られない。このうち第16代仁徳天皇を祀る前方後円形の大仙古墳は、日本だけでなく世界的にも類を見ない大きさの陵墓として、海外においてもその名が知られている。こうした大きな古墳の周辺には天皇の近親者や従者（陪冢）を祀る、陪塚と呼ばれる小さな古墳があり、仁徳天皇陵とされている大仙古墳の周辺に9基、羽曳野・藤井寺エリアでも応神天皇陵とされている誉田御廟山古墳の周辺にも7基見られる。

この百舌鳥・古市古墳群は堺エリア、羽曳野・藤井寺エリアともに、竹之内街道に沿って造営されている。竹之内街道は奈良県葛城市の長尾神社付近から、二上山の南にある竹内峠を越え堺に至る、日本最古の街道とされている古代の幹線道路で、後に造営された金岡神社付近を起点とする難波大道に接している。堺側で起点とされた大道筋の付近、現在の宿院町には千利休屋敷跡や与謝野昌子生家跡があることから、竹内街道起点が古代から現在の堺の中心地であり、この旧市街地には

観光スポットとなる歴史・文化施設や史跡が多く見られる。百舌鳥・古市古墳群の世界遺産登録で尽力した堺市は、巨大な大仙古墳の全容を観光客に対して如何にする見せることが可能となるか、大仙古墳を訪れる観光客の旧市街地へ誘致できるかなどの手段を模索している。

公開講座秋期教養コース（文京キャンパス）

天皇と皇族

2019年12月7日～12月21日（毎週土曜日）〈全3回〉

〈講座責任講師〉 本学文学部人文学科教授 三谷 博

この講座は、天皇の代替りに伴って天皇と皇室に関する関心が高まっていることに鑑み、日本史上で基礎知識となるはずの三つの問題を取上げて、学問的な観点から解説を試みた。第1回（12月7日）は三谷博の担当で、天皇の正統性に関わる即位儀礼について、令和に行われたそれと幕末の孝明天皇までの儀礼がかなり異なるものであって、幕末まで千年余の間に行われた即位礼は中国王朝の枠組に即して行われたことを示し、第2回（12月14日）は真辺美佐の担当で、明治以降、日本社会の近代化に伴って、皇后が公衆の面前に姿を現すようになり、その役割も従来のそれとかなり変っていったことを解説した。第3回（12月21日）は古代の天皇や女性の研究の第一人者である義江明子氏（帝京大学名誉教授）を招いて、皇極＝斉明天皇の具体的な事蹟の解説を通じて、7世紀から8世紀にかけて天皇の半数が女帝だった理由を、男女の双系相続などの慣行を背景に解説していただいた。

受講者は約200名で、いつもよりは多かった。時期に合わせたテーマを設定したからであろう。おおむね好評をいただいた。

〈第1回 12月 7日〉

現代と幕末までの即位儀礼

本学文学部人文学科教授

三谷 博

日本における天皇の地位の継承は、三段階に分れた儀礼を通じて行われてきた。踐祚・即位礼・大嘗祭である。踐祚とは新帝が先帝から勾玉と剣の神器を引き継ぐことで、その瞬間に地位の継承は完結する。即位式は皇位の継承を臣下に対して公表する儀礼である。新帝は正殿に設けられた高御座に登壇し、庭に整列した臣下の前に姿を現して、その拝礼を受ける。その後、殿上では盛大な

祝賀宴が行われた。大嘗祭は、新帝が夜を徹して八百万の神々を饗応し、統治の安寧を祈る祭儀である。この三段階のうち、今回は即位礼に絞って詳しく解説した。この儀礼の大枠は現代も継承されているが、その細部は時代とともに変化してきた。儀礼に着用する衣服、宮殿や庭のしつらえなどは、長い間、東アジア共通の中国風であったが、明治天皇の即位礼以後は少しずつ変化し、今は天皇と皇后の座が並立するなど、かなり西洋風となっている。その常と変の姿を外国との関係も視野に置きながら解説した。

〈第2回 12月14日〉

近代の皇后

本学文学部人文学科准教授

真辺 美佐

本回では、近代の皇后—明治天皇の皇后（昭憲皇太后）、大正天皇の皇后（貞明皇后）、昭和天皇の皇后（香淳皇后）—を対象に、その特徴として次の三点を挙げ、それぞれ解説した。すなわち、

（1）それまで常時置かれていたわけではなかった皇后が常置されるようになり、のちに皇室典範で法規定されたこと、（2）それまで皇后は宮中奥深くに座して表に出ることはなかったのに対し、近代の皇后は人々の前にその姿を現すようになったこと、（3）国際化のなかで、天皇・皇后が外交儀礼を取り入れ、写真撮影に応じたり、洋装化を行ったりして、対等な外国交際を目指したこと、である。

そのうえで以下の解説を加えた。すなわち皇后の訪問先については、学校などの教育施設、養蚕などの産業施設、病院などの社会事業施設を軸としたが、いずれも近代化を象徴する場所で、皇后は近代化の牽引役を果たした。しかし天皇と役割は異なり、例えば、学校では、天皇が国家のトップ

プエリートや軍人の育成を担う学校への訪問を中心としたのに対し、皇后は社会の幅広い層を対象とする学校を訪問し、産業施設についても、天皇が重工業、皇后が養蚕業や農業を主とした。また政府が貧民・窮民に対する社会政策に消極的ななか、皇后が困窮者に手を差し伸べ、国民に徳のある姿勢を示すことで、国民統合の役割を担うなど、一見暖かく見える皇后の行動の背景には、クールな国家構想が存在していた。

最後に、これらの役割は今日まで引き継がれているが、意味が変容したものもあることを指摘した。例えば養蚕は、かつての産業振興のためというものから、今日では伝統の継承へと、その意義は変化している。しかしそうした変化にもかかわらず、近代の皇后のあり方は、国家や国民にとってあるべき女性像の規範において今なお大きな影響を与え続けており、国民もまた皇后の姿に理想的な女性像を仮託しているのではないかと締めくくった。

〈第3回 12月21日〉

皇極—自らの王統を作りだした古代の女帝

帝京大学名誉教授

義江 明子

推古につぐ古代二番目の女帝皇極（重祚して斉明）は通説では、息子中大兄（のちの天智）・中臣鎌足等が蘇我氏を打倒した乙巳の変（六四五年）で退位させられ、重祚ののちも無益な宮廷土木工事を行人々の不満を招いた、とされている。しかし六～七世紀の大王は、ほぼ四〇歳以上の経験豊富な王族男女が、有力豪族の支持を得て就く地位だった。夫舒明死後に四九歳の皇極が即位したのは順当であり（中大兄は一六歳）、乙巳の変後に五〇歳の軽（孝徳）が即位したのは、同母姉である皇極の譲りによる。皇極は史上初の譲位により、群臣推挙のシステムを超える道を開いたのである。

皇太子制度の成立は七世紀末以降なので、中大兄を「皇太子」として政局の中心にすえる『書紀』の記述は、批判的に吟味して史実を再構成する必要がある。譲位により「皇祖母尊」の称号を奉皇

された皇極は、孝徳と並んで群臣と「君臣の盟」をかわし、その後も一貫して王権の中枢に位置した。孝徳と不仲になると、六五三年には息子・娘（孝徳皇后）を率いて飛鳥に引揚げ、官人等もそれに従った。孝徳が死ぬと再度即位し、飛鳥に壮大な迎賓施設（石神遺跡・亀形石槽・「狂心渠」等）を築いた。これが「宮廷土木工事」の実態であり、朝鮮諸国・南島人・蝦夷など、当時の外交路線に沿った重要な国家儀礼の場となった。

歴代遷宮の習わしを超えて同じ場所に重層して作られた「飛鳥宮」、蘇我系に共通する方形墳から脱却した大王／天皇固有の墳墓形態「八角墳」など、いずれも舒明を始まりに据えて、皇極／斉明が実行した王権強化策である。皇極＝皇祖母尊は、乙巳の変によって蘇我系キサキの生んだ舒明皇子古人を排除し、同母弟孝徳の死後はその皇子有馬を排除して王統を舒明—皇極の子孫に独占し、さらに舒明・皇極の父母にも「皇祖母命・皇祖大兄」の尊称を広げた。当時の社会に一般的だった双系的親族関係と長老統率秩序をベースに、自らの王統を作り出し、王権強化をなしたためである。

語学コース

春期:2019年5月18日～7月20日(毎週土曜日)〈全10回〉

秋期:2019年10月5日～12月21日(11月2日・23日は除く)(各土曜日)〈全10回〉

英会話

〈講座責任講師〉

本学文学部人文学科准教授 峰松 和子

(春期)

2019年度春期公開講座語学コース(英会話)として、5月18日から7月20日までの毎週土曜日午後、「英会話中級」2講座が新座キャンパスで開講された。「英会話中級A」は、本学兼任講師のKevin Scott講師が“Themes in American Culture”と題して、「英会話中級B」は、本学専任教員のColin Macleod講師が“Discussing Sustainable Development”と題して授業を行った。「英会話中級A」は受講者12名、修了者7名、「英会話中級B」は受講者14名、修了者11名であった。以下では、26名の受講者のうち19名から回答を得たアンケートの結果をもとに、講座について振り返りたい。開講時期、時間帯、講義時間などについては適切であるとの回答が大半であった。「英会話中級A」では、アメリカの文化をテーマ別に、「英会話中級B」では、持続可能な発展を題材とした講義とそれについての議論が行われた。19名中の18名が「内容について興味や関心が深まった」と回答している。講座の難易度についての回答は、「英会話中級A」では「適切」が6名、「難しい」が2名、「英会話中級B」では「適切」が7名であり、「難しい」が4名であった。また18名が「配布資料やスライドの量が適切だった」と回答。本学公開講座受講は9名が「初めて」、8名が「5年目以上」と回答。リピーターの関心の高さがうかがえる。18名が「今後、本学の公開講座を受講したい」と回答。問題点としては、主に「バスの不便さ」を挙げ、交通手段に関する要望が主なものであった。自由回答欄では、「毎週で10回参加はきついで隔週にしてほしい」との要望や、「内容が興味深く、毎回の講義が実り多いものだった」という声も複数あった。「参加者の皆さんが熱心で楽しく話せた」とい

う声もあり、議論をしながら内容を深める参加型の英会話クラスに対する受講者の満足や期待が示されているといえる。

(秋期)

2019年度秋期公開講座語学コース(英会話)として、10月5日から12月21日までの毎週土曜日午後、「英会話中級」2講座が新座キャンパスで開講された。「英会話中級A」は、本学兼任講師Brian Sayers講師が“Themes in modern world history”と題して、「英会話中級B」は、本学兼任講師のKevin Scott講師が、“Controversial issues in the USA”と題して授業を行った。「英会話中級A」は受講者7名、修了者3名、「英会話中級B」は受講者12名、修了者7名であった。以下では、19名の受講者のうち12名から回答を得たアンケートの結果をもとに、講座について振り返りたい。開講時期、時間帯、講義時間などについては適切であるとの回答が大半であった。「英会話中級A」では、近代西洋諸国における歴史的変遷について、「英会話中級B」では、アメリカ現代社会において論争となっている諸問題についての講義とそれについてのディスカッションが行われた。11名が「内容について興味や関心が深まった」と回答している。講座の難易度についての回答は、「英会話中級A」では「適切」が6名、「難しい」が1名、「英会話中級B」では「適切」が2名であり、「難しい」が3名であった。また10名が「配布資料やスライドの量が適切だった」と回答。本学公開講座受講は6名が「初めて」、3名が「2年目」、3名が「4年目以上」と回答。リピーターの関心の高さがうかがえる。12名全員が「今後、本学の公開講座を受講したい」と回答。今期で終了してしまうことに関しては、「今後とも継続してほしい」という要望が複数あった。受講者の公開講座に対する期待と強い要望を示しているといえる。

中国語会話

〈講座責任講師〉

本学文学部人文学科准教授 安本 真弓

(春期)

本学 2019 年度春期公開講座となる中国語会話は、ベテラン講師の李振溪先生がご担当された。おもな講義内容はつぎの通りである（このなかの多くが受講生のリクエストに応える形で決められた）。(1) 令和年号の由来である万葉集のなかで取り上げている漢文が中国文学の影響を受けていることや、それに関連する文学的な修辞法などの解説、ピンイン付き漢文や同様のモチーフである中国古典漢詩などの朗読練習、レベルの高い受講者による暗唱など、(2) 中国現代社会のなかで身近にある、ユーモアあふれる笑い話を題材とした長文読解、(3) 中国人の手紙の書き方や中国の新聞記事を題材とした読解、等々。受講生たちは議論を通して、中国人の笑いのツボはどこにあるのか、中国語の魅力と文化的背景に対する理解を深めた。また、手紙の魅力を議論しながら、受講生自身が手紙に関する思い出話に花を咲かせる場面もあった。

「中国語で手紙を書く」は今期講座のキーワードになったようで、これをテーマに作文に取り組み授業内で発表を行った。最終的には受講生全員の作文を文集にまとめ、一学期間の学習成果として共有した。恒例の打上げの会と余興カラオケ大会では中国語の歌を歌い、10 月の再会を約束しつつ全講座を無事終えた。

今期の中国語会話クラスでは 17 名ほどの受講者を迎え入れたが、このうち新顔は 5 名程度いらっしや。新入りの受講生のなかには十数年間の北京駐在経験をお持ちの方や、幼少期から海外で中国語を勉強されていた方などがいらっしや、中国語の学習年数が比較的浅い方にとってはいい手本となった。また、前期に出産準備のため産休をとっていらっしやった準ママがご出産後、健やかにご成長されている可愛い赤ちゃんを抱っこしながら今期の講座に通っていらっしやった。この

赤ちゃんは講座中も全く物怖じることのないお利口さんで、ご年配の受講生たちにとっては癒やしにもなったようである。

本講座のアンケート調査のなかで、「この講座を受講して、内容について興味や関心が深まりましたか」の質問に対して「深まった」と回答した方は 100%、「配布資料、スライドなどの量は適切でしたか」の質問に対して「適切であった」と回答した方も 100%であった結果からもわかるように、講座担当講師である李振溪先生の授業に対する受講生満足度も非常に高かった。一方で「意見、感想、要望」に関する自由記述欄には、「女子大なのに、教育機関なのに子育て推進していない(施設がない)ので、少子化、女性活躍不振なのではないかな?」、「多目的トイレにはせめてオムツ台欲しいです…」といったコメントが目立ち、地域交流を促進している本学にとっては非常に残念でならない。こうした施設の整備が急務であると考える。



(修了証を手に笑顔を見せる受講生たち)



(余興でのカラオケ大会)

(秋期)

本学 2019 年度秋期中国語会話の公開講座は、春期に続き長年ご担当されているベテラン教員の李振溪先生が指導された。具体的な内容として、(1) 春期受講生のリクエストに応え、二十四節気の話や秋冬に相応しい漢詩を取り上げた。中でも白居易作《香炉峰下新ト山居草堂初成》「日高睡足犹慵起，小阁重衾不怕寒。遗爱寺钟欹枕听，香炉峰雪拨帘看。」と枕草子作「雪のいと高う降りたるを例ならず御格子まゐりて 炭櫃に火おこして 物語などしてあつまりさぶらうに 少納言よ 香炉峰の雪 いかならむ と仰せられれば 御簾を高く上げたれば、笑はせたまふ。。。」に関連する話題は大いに盛り上がった。受講生の中には歴史博士がいて、互いに良い刺激になったようである。(2) 雪景色に関する散文を精読し朗読した。(3) 季節に合う家庭料理のレシピを訳し、自分が得意とする料理のレシピを中国語で発表した。(4) 春期受講生の要望に応えるかたちで、中国古典文学『紅樓夢』の内容も相当取り上げた。物語のあらすじや主人公を紹介するだけでなく、名著『紅樓夢』が中国人にとってどういった存在か、現代社会にどのような影響を与えているか、といったところまで掘り下げて解説を行ったため、他の中国語講座では滅多に触れることのできない内容となり、受講生にとっては良い勉強になったと思われる。

今期講座の受講者数は 19 名(定員 20 名)に上った。このうち新顔が 2、3 名おり、いずれも中国語の学習歴が長く、講座の雰囲気はいつもより賑やかであった。最終回では慣例となっている感想文発表会を行い、翌週末には池袋の中華料理店で、他の中国語クラスの同好者と合同忘年会が開催され、大変な盛り上がりを見せた。二次会のカラオケでは互いに中国語の得意曲を披露し、クライマックスではみなで大合唱をして終えた。

じつは、跡見大の公開講座は今期で打ち切りとなるのだが、講師である李先生が初回ガイダンスで受講生にそのことを伝えると、一様に残念の表情を顔に浮かべていたが、心準備ができていた李先生は「ご安心ください。これから、中堅メンバー

たちがお互いに協力して自主的に講座を開講するように、一緒に頑張りましょう」と呼び掛け、受講生たちを励ました(なお、自主講座は 3 月末より柳瀬川駅近くで開講する予定とのこと)。

当講座における受講生アンケート調査の中で「今期で打ち切りになると伺い、とても残念です。受講生も大幅に増加し、定員ぎりぎりになってきましたので、当分の間続くのかと思っていました。講師は教授方法が上手で、受講生間でも和気あいあいとしており、楽しく学びました。またの機会に開講されることを、お待ちしております。」といったコメントが寄せられていたことから、今まで本学が提供してきた本講座のクオリティの高さがうかがえよう。これまで受講者数も順調に伸び、地域交流の推進にも一定の役割を果たしてきたことを考えると、今回の講座打ち切りが非常に残念に思える。



(修了証を手に記念撮影)



(受講生からの寄せ書き)

朝鮮・韓国語会話

〈講座責任講師〉

本学文学部コミュニケーション文化学科

講師 吉田 さち

(春期)

2019 年度春期公開講座として「朝鮮・韓国語会話初級」コースが開講された。講座名は「楽しく学ぼう韓国語会話」である。担当講師は、昨年度の公開講座に続き、本学兼任講師の荻野千尋先生である。

講座の対象は、ハングル文字や発音を学んだことがあって、韓国語の基礎的なコミュニケーション力を身につけたい人と設定した。また、講座の目的は、日常会話で頻度が高い基礎的な表現に慣れて、これを身につけることと定め、実際に声に出して表現する練習を数多く取り入れ、基礎的なコミュニケーション力を高めることに重きを置いた。

講座の最終修了者は 5 名で、年代の内訳は、20 代 2 名、50 代 2 名、60 代 1 名と幅があった。荻野先生によると、受講生間の語学力の差も大きかったとのことだ。

授業では、買い物や道聞きなどの場面設定をして会話を行うゲームを多く取り入れたところ、多少緊張したりしながらも、全体的に楽しんで取り組む姿が見られたそうである。

受講生の間では、韓国等での再会の約束をする姿が見られたとのことから、公開講座は、学習者同士のネットワークを形成・拡張する場としても機能していることが伺える。

続いて、受講生へのアンケートの結果を考察する。前回まで中級コースが三回続き、今回初級コースが開講されたことで、新規受講生が 5 名中 4 名と比較的多かった。講座を知ったきっかけは、「西武バス広告」3 名、「ホームページ」1 名、「知人」1 名である。中級コースと異なり、大学からの案内がない分、リピーターが少なくなったようだ。自宅から会場までの所要時間は、「15 分以内」2 名、

「30 分以内」1 名、「1 時間以内 2 名」であり、近隣からの受講生が中心となっている。「この講座を受講して、内容について興味や関心が深まりましたか。」という質問に 5 名全員が「深まった」と回答している。また、「今後、また本学の公開講座を受講したいと思いますか。」との質問に対しても 5 名全員が「受講したい」と回答した。受講生には今回の講座に総じて満足していただけたものとみられる。

(秋期)

2019 年度秋期公開講座として「朝鮮・韓国語中級」コースが開講された。講座名は「楽しく学ぼう韓国語会話」である。担当講師は、2016 年度からご担当頂いている本学兼任講師の荻野千尋先生である。

講座の目的は、日常会話で頻度が高く非常に基礎的な表現に慣れて、身につけることである。荻野先生によると、今回の講座では、特に、対話練習やグループワークなどの実際に声に出して表現する練習を多く取り入れられたそうである。

講座では、天気を探ねたり答えたりする対話、映画に誘ったり感想を述べたりする対話、友達を紹介する対話、約束時間を探ねたり答えたりする対話、症状を説明したり禁止したりする対話などが取り上げられ、それぞれの対話に対してワークが導入された。

荻野先生によると、ペアやグループでの対話練習は、最初は「難しい」等の声もあがったそうだが、実際に行ってみると達成感があり、高い満足が得られたようだとのことである。

次いで、受講生へのアンケートを概観する。講座の最終修了者 9 名のうち、アンケート回答者は 8 名である。8 名の年代は、20 代～70 代と幅広い年代にわたっている。今回は本学の学部生も参加していたと聞いている。毎回幅広い世代の方が参加されているが、異なる世代の方とともに学ぶことによって、互いに刺激を与えあう場となっているものと思われる。

受講は何回目かという質問に対しては、7 名が

「今年初めて」と回答した。新たな受講生が大半を占めていたようである。

また、「この講座を受講して、内容について興味や関心が深まりましたか。」という質問に対しては、全員が「深まった」と回答し、「今後、また本学の公開講座を受講したいと思いますか。」という質問に対しても全員が「受講したい」と回答している。これらの回答から、今回の講座によって、朝鮮・韓国語への興味関心が深まり、今後の受講希望にもつながったことが伺える。

意見・感想・要望としては、「次回から朝鮮・韓国語がなくなるのは残念です。」「教材が、日常会話で実践的でよく考えられていると思いました。とても楽しい授業だったので、ぜひまた開いて頂きたいです。」等、次回は希望する声が寄せられていた。

朝鮮・韓国語の公開講座は、本学の語学必修科目に朝鮮・韓国語が導入された2015年度春期から始まり、今期まで5年にわたって開講され、幕を閉じることとなった。2015年度春期は魏聖銓先生、2015年度秋期は高木丈也先生、2016年度春期～2019年度秋期は荻野千尋先生にご担当いただいた。これまでご担当頂いた先生方に深く感謝申し上げます。

改めて、朝鮮・韓国語の公開講座を振り返ると、語学学習の場にとどまらず、異世代間交流や地域交流の場として一定の役割を担ってきたと考える。また新たな形でこのような学びの場が作られることを希望している。

パソコンコース

春期(新座キャンパス):2019年4月20日、27日、5月11日(各土曜日)〈全3回〉

秋期(文京キャンパス):2019年11月9日、16日、30日(各土曜日)〈全3回〉

〈春期〉

簡単な計算と見やすい表とグラフの作成

本学文学部人文学科講師 長谷川 幸代

2019年度の春期公開講座(パソコンコース)を2019年4月20日(土)、27日(土)、5月11日(土)の3回にわたって実施した。講座の内容はこれまでも実施実績があり、比較的日常でニーズがありながらも、なかなか個人で学ぶ機会が少ないと思われる「Excel」とした。また、レベル設定も悩むところであるが、例年、参加者に初心者が多いということから、入門レベルを対象とした。

実際に初日の講座を実施すると、参加者のレベルも多様であり、パソコン操作自体が初めてであるという方から、業務で多少使用しているという方まで様々であった。全体的にExcelにあまり馴染みのない受講者が多かったため、進度はゆっくりと、項目毎に説明した後、練習問題で各自が自分で操作する時間を設け、解説を行った。グラフ作成の際には、操作方法だけでなくどのような時にどのグラフを利用するのが適切か、といった点にも言及した。受講生からは積極的な質問や、講座後の相談もあり、熱心な様子が感じられた。

操作方法を習得して頂くためには、単に計算を行うだけでなく、その作業がどんな時に活用できるかという話をすることが、重要であると思われる。受講者は様々なライフスタイルを背景に持っているため、データ集計や名簿管理等、日常や業務に活用できそうなあらゆる場面を想定して解説することが、講座を通してパソコンをより楽しく便利に活用していただくことにつながるのではないだろうか。

また、終了後にいただいた意見の中で特に多かったのは、さらにステップアップしたいので、初級・中級とレベル別にExcel講座を開講して欲しいというものであった。普段は、どこでパソコ

ンを習ったらよいか分からないという意見もあった。年齢問わず、あらゆる人々が公開講座を受講し、より充実した生活を送っていただくことができるよう、今後も本講座が継続、発展してゆけばと考える。

(大変残念なことに、上記執筆後、本講座の終了が決定しました。ご参加頂いた皆様、秋期担当の柴田徹先生、諸先生方、TAの皆様、教務課、情報サービス課の皆様には心から感謝申し上げます。)

〈秋期〉

Excel入門

本学兼任教員 柴田 徹

秋期公開講座パソコンコースは、令和元年11月9日、16日、30日の3回(各土曜日、1回180分)にわたって、文京キャンパスにおいて開催されました。本講座においては、これまで同様、Excelの初心者向けに、入力、編集、書式・印刷設定、ワークシートの操作、四則演算、関数、グラフ作成等について、基本的な操作の説明と演習を行いました。

初回、衝撃の開講式でした。「今回でパソコンコースは最後となります。来年度からは開講されません」。担当職員の声に、私は頭の中が真っ白になりました。知りませんでした。アシスタントのみなさんも同じでした。以後の職員の台詞はよく憶えておりません。だいたい私自身が楽しみにしている講座でしたし、テキストの中綴じ(冊子化)、一括配布、初回のUSBメモリ持参等が、今回、揃ってようやく実現したばかりでした。驚きと落胆でいっぱいでした。

最終日のアンケートには、「(前略)今回が最終なのを知り(中略)非常に残念です。復活希望です。」「(前略)今回でパソコンコースは終了ということで、とても残念です。機会がありましたら、

又、ご一考頂ければと思います。」「(前略) 参加者はほぼ満席だったのに、なぜ終了してしまうのでしょうか (中略)。なんとか来期も開講してほしいです。どうかご検討宜しくお願い致します。」「今回で最後ということで、大変残念です。有料でも、次回以降も開講して頂きたいと思います。(後略)」等、継続を強く希望する声が目立ちました。私も受講生と同じ気持ちです。本当になくなってしまおうのでしょうか。今でも信じられません。

振り返れば、平成27年から令和元年まで計4回、本講座を担当させて頂きました。この間、アシスタントのみなさん、教務・情報サービス両課のみなさん、文学部教授・伊藤穰先生、同専任講師・長谷川幸代先生、本講座元講師の兼任講師・近藤佐保子先生には、大変お世話になりました。ありがとうございました。

本講座の報告もこれが最後かと思うと、感慨もひとしおです。4期・計152名の受講生の皆様、至らない点が多々あったかとは思いますが、どうかご寛恕下さいますよう。かけがえのない、楽しい時間を過ごすことができました。ありがとうございました。継続(復活)を祈りつつ。

受講生からのレポート

教養講座「産官学連携の成功事例に学ぶ」

春期教養コース（新座）受講生
飛田和 明さん

第1回「インターンシップ」精神より見た将来的展望感を助長する術を感じて

今回の講義も昨年の「秋期教養コース」と同様に、跡見学園女子大学の新座キャンパスに於いて、受講させて頂いた事に、大変、感謝しています。前回の「文化再発見」の講義とは、全く内容が異なる事にも驚きましたが、「産官学連携の成功事例に学ぶ」というタイトルより成功したとする内容の事柄であるのなら、是非とも講義の内容を聴講し確認したいと思い、マネジメント学部講師の山澤成康氏の講義をじっくりと聴かせて頂きました。

講義内容によると、大学という限定枠がある事も確かですが、学生及び一般社会人に迄、普及し理解の場を拡張すれば、将来的な前向きな心構えを大事にして、皆に、就業体験をさせる事と毎日の社会的習慣を過ごす事は、何ら変わる事のないものだと思います。

また、社会経験より学んだ事柄を生かして、会社及び企業より求められる人材育成の手段を高度化する事は、大変に重要な事であると思います。自らの人間性を深く見つめて考慮する機会に恵まれた事をもっと大切にしたいと感じました。

第2回「課題解決型学習」の効果的な活用法を用いた具体策

公開講座春期教養コースの今年度第二回目の講義が跡見学園女子大学の二号館一階七十一教室に於いて行われました。講師は、山田満元マネジメント学科教授でした。

まず、PBL「課題（問題）解決型学習」の捕らえ方を、知識の暗記などのような受動的な学習ではなく、学生が主体的に問題を発見し課題解決する能力を養う事を重視している点であると思いました。また、

捕らえ方の視点を学生のコンシューマインサイト（消費者感覚）や若者らしさから企業や自治体の必要性や必要性の有り方を提言する実践型の学習を推進している所に歓心しました。

そして、「問題」という視点より見た「理想と現実のギャップ」（現象・状況）についてと、「課題」という視点より見た「問題の原因を究明し解決するための具体的テーマ」（解決意思）という捕らえ方では、大きな相違がある事を知りました。

次に、問題解決のプロセスの解説では、始めに、「問題点の発見」続いて、「原因の究明」及び、「課題の設定」そして、「解決創造力」にて、解決策を提言し、「解決実施能力」にて、課題の解決に取り組もうとする意気込みを感じました。

最後に、PBLの成果や効果については、一、企業へのソリューション提供及び、二、社会人基礎力の育成効果にて、PBL活動が「一步前へ出る力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」など社会人基礎力を育成した事を報告しています。三、学業や就活への効果が、よく表れているのが、特徴的だと思います。

さらなる効果があることを期待しています。

第3回 ボランティア参加の意義と魅力的なまちづくりについて

第三回目の春期教養コースを跡見学園女子大学の新座キャンパスに於いて受講出来ました事をお大変、有り難く思います。

まず、講師は、同大学マネジメント学部の准教授である許伸江先生でした。講義内容としては、研究分野からゼミの紹介を経て、中小企業、地域活性化、女性起業家に関する事、また、ボランティア参加の意義を唱えて、革漉き職人の工房での革漉き体験と、小銭入れづくりのワークショップでの体験を例に上げて、まちの魅力に気づいたと講義されています。そして、マタギプロジェクトとは、どのような組織なのかと言う事を「シカやイノシシの獣皮活用をサポートするNPO・学校・なめし工場等のメンバー中心に二〇一三年四月より実行委員会として組織化し

た。」と説明されています。

跡見マタギチームのあゆみとして、マタギシウボウジウム運営スタッフにより、企業と連携した商品開発が推進されている事を知る事が出来ました。開発された商品として、学生向けの名刺入れが二〇一四年度に、革製品メーカーの協力のもとに商品開発されたものは、手帳用のペンホルダーが二〇一五年度に商品開発されています。また、二〇一六年度には、がま口ポーチ&アクセサリ、二〇一八年度には、定期券ケース&コード止め等が、商品開発されたと講義されました。体験を通してのコメントや評価も、言葉遣いが勉強になった、「誰かがやってくれる」というしせいは、全体の迷惑をかけると痛感したので、責任感が生じたとの良い評価が掲載されている所が注目される点だと思いました。社会協力の意義と必要性を実感して、組織としての働き方や取り組み方を学ぶ事に、これからの社会貢献の意義が感じられると思いました。

教養講座「都市のコミュニティを考える」

春期教養コース（文京）受講生
飛田和 明さん

第1回 生涯学習支援の取り組み方と地域社会コミュニティの活用方法について

跡見学園女子大学（文京キャンパス）に於いて、春期公開講座教養コース「都市コミュニティの考える」と表題し、第一回目の講義として、「町内会、自治会のいまー子ども食堂や学習支援の取り組み」という内容で、講師の靄理恵子先生の講義を聴講させて頂きました。まずは、「町内会、自治会とは？」と語られて「暮らしを根底から支える地域住民組織である。」という事を知り、「コミュニティとは？」と語られて「場所性と共同性がズレたり重なったりしながら存在するものだ。」と講義されました。場所性とは、地域を基底的な構成要因として成立しているもので、共同性とは、地域に根ざさない仲間関係というものだという事を理解させて頂きました。また、地域社会に根ざした共同組織という捕らえ方で講義されています。

次に、コミュニティへの着目の背景として政府の方針として、構造改革としての市町村合併及び地方自治体の関心事である住民サービスのハードからソフトへの転換によって、住民自身の考え方の変化が起こった事を指摘しています。町内会へも二〇〇〇年前後から注目期待されるようになり、地域の助け合い、地域コミュニティ、普段からの備えについて、地域福祉の観点より二〇〇〇年四月より介護保険制度がスタートして、施設から在宅へ移行し、権利としての福祉制度の推進が行われた様です。また、NPO法人の誕生及び活躍そして、市町村の社会施設協議会からの働きかけで、小地域福祉ネットワークの担い手の一つとして、挙げられている様です。町内会への再注目として、市町村の社会福祉協議会からの働きかけにより、自主防災組織、備蓄倉庫、避難所の設営、運営、訓練等による防災意識の醸成が行われました。町内会、自治会研究の歴史として、都市社会学、地域社会学において、町内会は、日本の都市地域で、一応、丁町別を単位として、形成されている住民組織であると認識され、第二次大戦中、町内会の組織化が法制化され、戦争目的に、都市住民を総動員することに大きな役割を果たし、戦後に、マッカーサー禁令のより、解散を命じられて、講和条約締結後、禁令が無効になり、法的基礎は与えられなかったが、日本の都市地域のほとんどにおいて、復活されたと講義されています。当時は、日本独自の前近代的集団とみなされておりましたが、否定的評価を前提に特徴として、加入単位は、個人ではなく世帯であり、一定地域居住に伴い加入は、半強制的または自動的に行われ、昨日は未分化で、多機能的または、包括多国的であり、末端行政の補完作用、そして、旧中間層を主力とする伝統的保守主義の温存を基盤とするものであったと講義されています。新しい「公共」の構成要素として、自助、共助、公助の共助部分を示すものであります。そして、子ども食堂の始まりと広がりとして、二〇一六年前後から、「子供の貧困」問題から急速に知られる様になり、一種のブームを呼ぶ様になった活動の担い手は、それまで、自治会活動をやっている人、消費者運動やその他市民運動等に関わっていた個人や団体の他、

ボランティアを含め、ほとんど何もやった事がないという人も有り、それが、新しい形といえる地域の中にどう受け入れられていくかが課題の一つであると思われます。また、子供の居場所作りの問題として、「困った時は、人に相談して良いのだ。」と教えて上げたり、孤立している子供は、自分の困り事を、誰に話して良いかが分からないので、その共助を求めている為に、「おもてなし食堂」を二〇一八年五月に、文京区社会福祉協議会の支援を受けて立ち上がり、スタッフやボランティアの輪が次々に広がり、日中、仕事をしている人も、仕事が終わってからの帰り時間に、配膳や洗い物に駆けつけたり、仕込み作業を行ったり、多様な人々がそれぞれ無理なく関わられる事で継がりを持てる様になった表町町会は、赤ちゃんから高齢者まで誰も見捨てない街づくりを目指して活発に活動している町会であり、そこで培われた経験やネットワークが「おもてなし食堂」の立ち上げと運営に活かされていると講義されました。

重要な課題の一つとして、地域社会が身近でなくなり、人間関係が、希薄になるほど、人間関係の質が愛他的なものから計算高いものへと変化していく事に、最も注意しなくてはならないという事であり、社会的な思恵や感謝に対する恩返しという気持ちや考え方を大切に、地域内の問題を契機に集まって協議するうちに、地域社会が活発化するものであります。明るい展望を持ち、小集団、ネットワークを沢山積み重ねる事や集団ネットワークの累積体によって、助け合いセーフティネットの構築を容易にする基盤づくりをする事である。重要な事は、他者への信頼関係であり、誰も見捨てない、見捨てられない社会である事が、社会への信頼性であると思われます。私達一人一人、足元から耕していくことが大切で有ります。学習支援を通して社会的な助け合いの基盤を構築する事が今後の課題となるであろうと思われます。

最後に、学習支援の状況がいかなるものであるかという事で、子供食堂から宿題や勉強を教える場が生まれる事であり、またNPO法人「無料塾」(ひこご)の活動等も、是非とも公開され、学習の場をつくってみたいと希望するものであり、学生にとっても、

さまざま刺激、成長の契機に、学習の場に止まらず、居場所として、夢や希望を抱いたり、語ったりできる人との出会いの場として、わからないから勉強したくなるさらにわかる様になれば、もっと勉強がしたくなる事で、信頼できる他者との出会い、社会への信頼や期待を構築する意味で重要で有ります。皆が一人でない、かけがえのない私という存在を実感し、自分を大切に、しっかり生きて行こうという思いを持つ事であると指適されています。

第2回 コミュニティによる直下地震に対する防災力を高める方法

跡見学園女子大学春期公開講座教養コースの「都市のコミュニティを考える」の第二回目の講義である「コミュニティの防災力を高める」というテーマで、講師の鍵屋一先生の講義を聴講させて頂きました。まずは、大阪北部地震直後の図書館や北海道胆震東部地震を例に上げて、真備町の避難所におけるスライドを見せて、公共施設への非難状況を如実に語っていました。また、ユネスコ無形文化遺産である男鹿のナマハゲら来訪神の講義をされ、「ナマハゲ」の語源は、「怠け者を剥ぐ。」という意味だと語っていました。そして、三十年間の「困難」地震発生確率をジャンボ宝くじで百万円以上当たる確率と比較して、とてもユニークな講義をされている事に関心を持ちました。

次に、「なぜ、人は、備えないのか?なぜ防災の優先順位は低いのか?」という疑問に対しては、正常化の偏見として、「自分は大丈夫」という自分にとって都合の悪い情報を無視したり、過少評価してしまう人間の特性を指摘していました。そして、耐震化政策の新戦略として、現状は、持ち家、高所得層のみ支援しているが、セグメント別の対策の必要を解いています。例えば、持ち家、賃貸、高所得、低所得の組み合わせによる四種で説明されています。

また、高齢者標準社会の耐震化推進策や賃貸住宅における耐震性公表、そして、木造住宅密集地域へは、小規模な事前復興住宅を建てる等の震災復興まちづくり計画の配慮が施されていると講義されてい

ます。地震保険に加入しているというアンケート調査による確率が、九七、八%という数字を示している事に関心の眼が向きました。

そして、「在宅避難の肝」と題して、長期修繕計画は非常に重要である事を指摘し、防災計画マニュアルの大切さ、居住者リストや地域連携の重要性、また、トイレ、水、食料の備蓄の必要を講義されました。

次に、防災の正四面体の図形より、自助（減殺対策、家族情報等）を示し、近助（コミュニティ活動防災訓練）を示し、共助（ボランティア、NPO、企業等による協定）を示し、公助（防災計画、BCP、広域連携等で、行政や病院、学校等）を示すものであると説明をされました。

また、「地域防災計画とは？」と題して、市区町村の地区住民及び事業者が行う自発的な防災活動計画であり、住民と企業、NPO、ボランティア、学校、医療、福祉施設等の連携によって市民の命を守る「共助の計画」と言われています。

最後に、「これからの防災は？」として、損失を減らす防災から「魅力増進型」の防災へとし、日常から人間関係、近所関係を良好にし、排除される人のいない魅力ある地域を作る事が災害や危機にも強くなると指摘されています。

第3回 地域社会における住民の多様性と活気及び安心感を抱けるライフステージを目指して

春期教養コース「都市のコミュニティを考える」の第三回目として、新旧住民がつくる街のかたち—高層マンションが増加する街—と題して、観光コミュニティ学部の佐野美智子先生の講義が、行われました。先生は、早稲田大学の社会学部及びアメリカのミシガン大学の社会調査学部等を経験して、跡見学園女子大学の観光コミュニティ学部の講師となった事を詳細に語っていました。

また、「社会調査実習」が行われた際には、地域活動センター等の協力によって、「人口の都市回帰とマンションの増加と新住民について」や「若年子育て世帯が多いマンション住まいの新住民と高齢化する

旧住民について」の社会調査が行われた事を講義されました。

そして、東京都内の近年における分譲マンション化率で、一戸建ての戸数が、一九九五年度（平成七年度）に最も減少している事を示しています。文京区における住民基本台帳人口の年齢構成の変化を過去二十年間を通して示めす事で、老年人口や生産年齢人口や年少人口の割合をグラフで読み取る事が出来ます。「大塚三丁目、地域満足度調査」アンケート結果から、近所付き合いについて、居住年数が五年未満である新住民が、「あいさつ程度」であるのに対して、旧住民は、「行き来する関係」と近所付き合いに違いがある事を示しています。

また、近所付き合いの程度の七割が、あいさつをする程度であり、世間話をする程度、おすそ分けをする程度、悩み事等の相談をする程度と、近所付き合いの仕方が年齢によって違って来る事がわかります。

そして、地域生活への満足感については、新住民に、一般的に旧住民より満足派が多く、特に日常生活や街の雰囲気（景観、住民、行事）に満足していると答えています。地域への愛着は、新住民の八割強が「愛着がある街」と解答しているとの事です。

最後に、望ましい街の有り方についてのインタビュー結果から、新旧住民の転入より住民の年齢構成や世代構成が変わり、街の多様性が増大して、その「多様性」を「活気のある街」と「安心に過ごせる街」につなげていこうと考える新旧住民の変化の方向性を見たとまとめています。また、社会関係資本（ソーシャル=キャピタル）におけるつながり資源より協力し合える住民意識が必要である事を講義されました。

教養講座「世界遺産(産業遺産)と観光」

秋期教養コース(新座)受講生
飛田和 明さん

第1回「ロマンチック街道」の発掘を起点とするドイツの環境政策

本日は、十月十二日(土)の実施講座の延期により「ドイツの産業遺産と環境」の公開講座が、種田明先生によって講義されました。まずは、台風十九号の影響により急遽延期になった講義が本で行われる事に対して、黙禱を捧げ感謝の意を示しました。

また、私自身も予定されていた講義が、しっかりと受講出来た満足感と安堵感を覚えました。

講義の内容は、参考資料に基づいて行われドイツの世界遺産ランキングは、スペインに次いで第4位であり、地方分散型の環境政策がとても上手に行われている様です。表題に触れましたが、「ロマンチック街道」の発掘に始まり、「ワイン街道」、「メルヘン街道」、「古城街道」等、観光と文化に強く結びついた様々な街道がある事を学びました。

また、訪独する日本人観光客の獲得をドイツ観光局がどのように行っていたかにも触れていました。集英社の女性誌と組んで、かつての交易路やドイツの田舎町を「ロマンチック街道」として大々的に売り出したり、自分の町だけのためでなく、お互いのために助け合ったこともあいまってプロモーションを大成功させたりと、爆発的にロマンチック街道のツアーの人气が高まり、ドイツの小さな町々に日本人観光客が訪れたとの事でした。

次に、「産業遺産観光 ERIH へ」として、一九九四年にユネスコは、「グローバル戦略」を制定し、世界遺産リスト登録の偏重として、都市、信仰関連、優れた建築が過剰に登録されている事を正し、比較研究が進んでいる「産業遺産」「二十世紀の建築」「文化的景観」の三種別を登録対象として積極的にアプローチしていく事としています。グローバル戦略としては、「世界遺産一覧表における不均衡の是正及び代表性、信頼性の確保のためのグローバルストラテジー」が、第十八回世界遺産委員会で採択されてい

るという事です。

最後に、現在の ERIH についてですが、産業遺産への意識向上、経験交流促進、協力強化、新規集客、イベント新展開、文化遺産重要側面としての産業遺産の評価上昇を図ることが、ERIH(エリー)の目指す所とされています。

第2回 グランドツアー時代に見るイタリアの世界遺産の素晴らしさ

本日(十月十九日)は、講師河村英和先生による「イタリアの世界遺産と観光」という表題で講義が、一時間半に渡り行われました。ユネスコ世界遺産登録件数ランキングが中国に並んで第一位であるイタリアに、遺産資源の豊富さを感じました。また、世界遺産登録の初期は、ローマ、フィレンツェ、ヴェネツィア等とても有名な都市が多いのが、特長であると思いました。観光名所のトレンドの時代的変遷をみる事によって、「ローマ歴史地区」が、最重要目的地であり、「世界の首都、すべての道はローマに通ず、ローマは一日にしてならず。」「コロッセオが建っている限り、ローマは不動、コロッセオが崩れるときは、ローマも滅亡、そしてローマが滅びるとき、世界も同様。」と、「ローマ歴史地区」の偉大さを語っていると感じました。

そして、「ヴァチカン市国(ローマ)」は、ローマ、カトリックの総本山サン・ピエトロ大聖堂を模した建物が、十九世紀以降、ヨーロッパ、アメリカで増加した事を講義されてます。次に、世界遺産登録された「ヴェネツィアと潟」ですが、「嘆きの橋」の人氣は、バイロンが謳ってから、外国人旅行者たちが、その経験を絵画、音楽、文学に昇華し、二十世紀は、多くの外国映画が、ヴェネツィアを舞台に制作されたとの事です。

一九九四年登録の「ヴィチエンツァ市街とヴェネト地方のパッラーディオのヴィツァ」十六世紀の建築家パッラーディオの建築様式(パラディアン・スタイル)を、本国に持ち込んだ英国人が、世界中に普及させたとの事です。また、一九九五年登録の「ナポリ歴史地区」は、古代ギリシャ=ローマの都市計

画面上にあるエリアであり、十七、十八世紀は、バロック芸術・音楽・建築が開花し、イタリア最大の王国の都だった事が証明されている事に、驚きを感じました。イタリア統一後は、地方都市に転落し、反社会組織カモッラの拠点で、戦後は、危険な町として観光客は避け、近郊のリゾート地の中継地の認識だったが、近年人気急上昇し、イタリア映画のロケーション地第一位になっているとの事です。

最後に、一九九七年登録の「アマルフィ海岸」ですが、一八二〇年代ロマン主義期の外国人風景画家たちが、その自然美（溪谷、断崖、荒れた海）を題材として評価するようになり人気になったとの事です。世界遺産登録後は、オーバーツーリズムと渋滞問題に悩まされたと記されています。

とても楽しく拝聴出来て、とてもよかったですと思いました。

第3回 国際記念物遺産会議における百舌鳥、古市古墳群の世界遺産登録への軌跡

令和1年10月26日（土）は、「百舌鳥・古市古墳群」について、観光デザイン学科の講師である鶴田雅昭先生の講義が行われました。文化庁文化審議会世界遺産部会において登録審査候補地として決定された、百舌鳥・古市古墳群は、2013年から、毎年世界遺産への推薦を目指し、推薦書素案を文化庁へ提案してきたが、国内選考から漏れ、2017年7月に、2019年に登録審査候補として推薦することが決定されました。

また、ユネスコの諮問機関である国際記念物遺産会議による現地調査の実施が、2018年9月に一週間にわたって実施され、2019年5月に、国際記念物遺産会議が世界文化遺産として登録を勧告することになりました。

そして、2019年7月、アゼルバイジャンのバクーで開催された、第42回世界遺産委員会に登録が決定されることとなります。国際記念物遺産会議の評価として、4世紀後半～5世紀後半にかけ、広域の豪族による連合政権が初期国家を形成してゆく過程を示し、4種の墳形（円墳、方墳、帆立貝形古墳、前方

後円墳）と、規模に差異がある古墳群からは、被葬者の身分差が読み取れると講義されています。また、古墳時代は、中国の律令制を採り入れる前の日本固有の文化であり、古墳の形状は、後の時代の皇族の墓形に受け継がれており、埋葬の伝統を証明しています。土製建造物は、極めて優れた技術があり、仁徳天皇陵が造られた時代には、鉄の加工技術があったことを示しています。

最後に、保存・管理についての指摘をされ、市街地にある為、将来的な開発を警戒し、周辺で事業が計画された際には事前に影響を査定することを示し、一部で墳丘の崩壊が見られるので、その安定性の検討や、被葬者が伝承ながら現在もその末裔により祭祀されていることに注目し、伝統の継続と記録の必要性を示唆して講義の内容を締め括っています。

公開講座「世界遺産(産業遺産)と観光を受講して」

秋期教養コース（新座）受講生 戒田 直行さん

今回、跡見学園女子大学の公開講座に参加させて頂きました。

私も海外旅行によく出かけ、世界遺産という名所、旧跡などを見て歩き、学生時代に学習した世界史の教科書にあった名所などを訪問した時は感激してまいります。

第三回目に受講させて頂きましたドイツの観光で印象に残ったお話がありました。それはロマンチック街道が世界的に有名になったお話でした。

ドイツ観光局や自治体が日本の出版社の女性誌「non-no」(ノンノ)と組んで昔の交易路やドイツの田舎町を「ロマンチック街道」と大々的に売り出しました。結果、このプロモーションは大成功しました。当時の観光局や自治体がいかに観光客の獲得を懸命に考え、意欲的、積極的に施策を実行していることに驚嘆しました。

ドイツのように地方分散型の世界遺産観光を盛り上げてきた当事者の将来の見通しの素晴らしさを感じました。因みにドイツにはいろいろな名称の街道

があるのは再発見でした。

今度ドイツに行くときは古城街道やドイツワイン街道など魅力的な名称の街道をよく勉強して訪問したいと思いました。

私は定年も間近になり、老後の趣味やボケ防止のための一環として世界遺産検定1級を目指して、奮闘中であります。テキストの内容を覚える際にもただ覚えるのではなく、世界遺産を保有している国の考え方とか施策を見ることによって立体的に想像でき知識を楽しく増やせるのではないかと思います。またこのような公開講座を開講して頂きたいと思っております。

今回このような素晴らしい講座を開講して頂き、ご関係者の皆様有難うございました。

世界遺産(産業遺産)と観光

秋期教養コース(新座)受講生

瀧上 浩司さん

ルネサンスが栄えた場所であるイタリア。輝くばかりに美しい建造物が目立つドイツ。上品で美しい木造建築が沢山ある日本。世界遺産登録のあり方を考える機会となりました。

第1回はドイツの産業遺産と観光。バロック宮殿のヴェルツブルクの領主の館やロココ建築のヴァイス巡礼教会など見所があるロマンチック街道を紹介していましたが、古城街道が重なるところにあるローテンブルクは日本人観光客が多く、日本語で説明があるシュネーバル屋がある現実があります。大聖堂がそびえるケルンの街は一時期フランスの支配下にあってオーデコロン(Eau de Cologne)とフランス語風の名前の香水がフランス兵が持ち帰って広まりました。ドイツは生活環境で多言語国家となっています。

第2回はイタリアの世界遺産と観光。コロッセオの8割がポッツォラーナ(火山灰)で作ったローマンコンクリートでできていて、現代の鉄筋コンクリートは約100年だが2000年も建ち続けています。その一方で8世紀後半に改修されたサン・パオロ・フォルリ・レ・ムーラ大聖堂は9世紀のサラセン人の略奪、

14世紀の地震と被害を受け再建されましたが、1823年の大火災で正面の一部・横断アーチ・交差点・中庭を残して再び全壊してしまい、創建当時のバジリカ様式を守り1854年に再建されました。それでピサの斜塔は今の技術で真っ直ぐにすることは可能だが、そうすると普通になって観光客が訪れなくなるそうですが、巨大なつかえ棒で支えれば安心感を持つのでしょうか。

第3回は百舌鳥・古市古墳群。15代応神天皇は近畿から西日本一帯を平定して、軍事的な勢いから八幡神とされてきました。16代仁徳天皇は民のかまどから炊飯の為の煙が立っていないことに気づいて6年間課税免除と労役を停止しました。戦前は歴史の真正性より神話や物語が優先されたそうですが、大山古墳から新しい技法による円筒埴輪が出土して、上石津ミサンザイ古墳から古い型式の円筒埴輪が見つかりました。しかし17代履中天皇の在位がたった5年でも、弟が宮殿に火を放った時神武天皇のピンチを救った刀を奉る石上神宮に身を隠し、平群木菟・蘇我満智・物部伊弉弗などの側近にも恵まれました。大山古墳の実際の被葬者はどちらでしょうか。

以上のことから観光収入を見込める一方で、維持費用がかさんだり国際記念物遺跡会議による現地視察調査が行われるデメリットがあり、人類共通の宝として保護し守っていくという原点に立ち返ることが大切だと考えます。

古墳時代の塚で鉄の生産は可能であったか？

秋期教養コース(新座)受講生

竹谷 篤さん

堺市の近辺の古墳からは鉄の遺物が発見されている。今回の講義ではこの時代に堺近辺で鉄器が作られていた可能性があるというお話を伺った。この時代に可能であったかどうかについて技術的側面から検討してみた。現代の鉄の生産法から類推して、鉄器を作るには、鉄の原料となる鉄鉱石(当時で主に砂鉄)、鉄鉱石からの還元反応および鉄の加工のための熱源としての木炭、鉄の加工を行う技術と技術者が最低必要である。このうち原材料としての鉄と木

炭の入手性について調べてみた。

「たたら 日本古来の製鉄技術」 黒岩俊郎著
玉川大学出版部(1976)によると奈良県の「宇和奈辺
陵墓参考地」(被葬候補者：第16代仁徳天皇皇后八
田皇女)から大量の鉄錠と鉄製品が発掘されてい
て、これらの鉄が作られたのは成分分析から中国の
鉄と推定され、他地域から搬入である。

加工に対しては「人はどのように鉄を作ってきた
か」永田和宏著 講談社刊(2017)では江戸時代の鑄
物の製造に製品となる鉄とほぼ同量の木炭が必要と
されたと記述がある。木炭の生産には原木がその4
倍程度必要となるので、鉄1Kgを加工するには4Kg
の木材が最低必要となる。古代の技術ではもっと大
量に必要であったとも考えられる。大林組によると
古代の技術で動員された人数はピーク時で一日あた
り2000人、15年間の工期の推測がなされている。
このうち半数が1Kgの鉄器を使用して作業すると
なると、必要な鉄器の総量は1000Kg、耐用年数が1
年とすると、年間4トンの木材が必要である。これ
だけのものを周辺の木材で供給できたか、というこ
とは当時の地形、植生との突き合わせが必要と考え
られる。

歴史の研究において政治経済文化等の人文社会科
学的な観点だけではなく、工学、生物学等の観点が
必要であり、考古学研究が総合科学的なものだとい
うことを認識させられました。

教養講座「天皇と皇族」

秋期教養コース(文京)受講生 飛田和 明さん

第1回 時代の特色なる即位儀礼の特徴

本日、十二月七日(土)は、跡見学園女子大学公
開講座「教養コース」の天皇と皇族を表題にて、講
師の三谷博先生の「現代と幕末までの即位儀礼」と
いう講義が行われました。

始めに、即位儀礼の三段階についての講義にて、
一、踐祚として、皇統の継承、内廷で劍璽渡御又、
二、即位礼として、臣下、天下への公告、外廷の正

殿とその南庭で「宸儀所見」十臣下の拝礼が行われ、
三、大嘗祭として、神々との直会(共食)が臨時設
営の悠紀殿、主基殿で行われると言われました。

また、令和の即位礼という講義では、基本的には、
登極令を基盤にして、即位礼の前に宮中の三殿(賢
所)に報告し、場所は、正殿と中庭(長和殿)にて
行われるとの事です。正殿に高御座と御帳台、天皇
の装束は、黄櫨染袍で、皇后は十二単と決まってい
ます。参列者は、正殿と庭は衣冠束帯、長和殿側は
随意となっています。正殿上に、皇族、女官は不在
であり、天皇の言葉と朱層の祝辞が述べられ、万歳
三唱が行われ、後日に、パレードが行われるという
順序になっています。

次に、幕末までの伝統的即位礼としての講義です
が、孝明天皇の即位儀礼を例に上げて、一、踐祚(弘
化三年二月十三日)に、劍璽渡御(草薙剣と勾玉を
進呈の居所に移す。)を行い、臣下の地位確認(関白
と蔵人頭から)と、女官の処遇が行われ、二、即位
礼(弘化四年九月二十三日)に、臣下との公式行事
が、「宸儀所見」十臣下の拝礼として行われ、三、大
嘗祭(嘉永元年十一月二十一日～二十四日)で、天
神地祇との行事として祭儀が行われ、南庭に設けた
悠紀殿と主基殿で、天皇が神々と直会(共食)する
儀式が賜宴(紫宸殿)で二日、最後に豊明節会で一
日行われました。

そして、平安時代から幕末まで特徴を次の様に上
げています。一、即位式は、中国風で、御殿の造り
や南庭の装飾、装束(衣冠)、動作(揖)、焼香にそ
の特徴が表れています。二、仏教的要素もあり、即
位灌頂(大日如来の化身)や、三、女官の役割が大
きく、天皇に近い位置に就いていました。

最後に、明治と大正の即位礼の講義として明治天
皇での変化(明治元年八月二十七日の東京に於いて)
「新式」により一、中国風の排除、禮服不使用、幢、
幡、の頂部に榊、即位灌頂・焼香廃止を上げ、二、
世界との関わりを表現し、香炉の代わりに地球儀を
使用する。また、臣下からの寿詞奏上により天皇と
の距離が縮まる等、儀式参加者の増加が目についた
との事でした。また、大正天皇での変化(大正四年
十一月十日の京都に於いて)登極令により、一、即

位礼と大嘗祭を連続し、京都開催のため、パレードが入りました。二、皇后の高御座を設置し、女官を排除しました。三、天皇が勅語を述べ、外国使臣も廊下に参列し、洋装の多用を含め、総じて西洋風になったと講義をされました。講義全般を通して異世界感を堪能出来た様に思いました。やはり、日本皇族の伝統は、偉大であるなど実感する事間違いはありません。素晴らしい講義を有り難う御座いました。

第2回 近代の皇后の行啓による産業の奨励と社会事業の有り方について

本日、十二月十四日（土）は、跡見学園女子大学公開講座「教養コース」の天皇と皇族をテーマに、講師の真辺美佐先生による「近代の皇后」という講義を受講させて頂きました。

はじめに、旧皇室典範における「皇后」の身分を示す「皇族身位令」を確認し、追号は「皇太后」とする事を学びました。

また、近代の皇后の行啓の特徴の講義により、近代化を象徴とする場所に行啓するのは天皇と同様であるが、訪問先は異なっている事を学びました。

次に、近代の皇后の行啓場所の特徴ですが、学校などの教育施設の学問に対する関心が高く、近代という時代に応じた教養や知識が要求されるようになると、西洋の学問も積極的に学修したとされています。女子教育の振興に尽力したと知られています。そして、代表例として、東京女子師範学校、華族女学校等の教育施設の行啓場所を上げています。一八八六年には、史上初めて洋装して行啓し、鹿鳴館時代で、宮内大臣伊藤博文の方針に沿って欧化主義路線が採られた時、宮中を近代化し、文明国として外国に認められ、外国交際を円滑に行う為に、皇后はじめ皇族、華族の夫人も洋装化することが不可欠だと考えられたとの事です。さらには、養蚕業などの産業施設を行啓されたとの事です。天皇と皇后は、国家や社会の繁栄につながる産業を奨励する為、産業施設にそれぞれ行幸、行啓し、各地の生産物を買上げる事を行っています。

また、天皇が、重工業の奨励に力を入れたのに対

し、皇后は、養蚕業や農業の奨励に力を入れていた点が特徴となっています。養蚕の奨励としては、一八七二年の富岡製糸場の設立を上げて、生糸の生産改善と向上をはかる為に、最先端の洋式操糸器械を備える形で設立されています。日本初の官営器械工場となっています。

最後に、病院等の社会事業施設への行啓についてですが、貧民、窮民に対する社会政策に消極的な政府に対して、皇室（特に皇后）は、社会事業施設に積極的に関わり、支援を行う役割を担う事に力を入れ、困窮者に手を差し伸べる事によって、国民に徳のある姿勢を示し、国民総会の役割を推進していく姿勢を取っていました。例として、東京慈恵医院、日本赤十字社、福田会育児院、岡山育児院等に行啓をしています。昭憲皇太后基金として、一九一二年、アメリカのワシントンDCで開催された赤十字国際会議において、国際赤十字に対し十万円を下賜しているとの事です。

第3回 史上初の譲位を行った皇極天皇に奉呈された「皇祖母尊」

本日、十二月二十一日（土）は、跡見学園女子大学公開講座「教養コース」の天皇と皇族をテーマとする講師義江明子先生による「皇極—自らの王統を作りだした古代の女帝—」の講義を受講しました。

始めに、天皇即位時の年齢（六世紀以降）を確認し、三十一歳で即位された欽明天皇の「幼年浅識、未だ、政事にならわず」と言う御言葉に謙遜の意を感じました。また、史上初の譲位については、皇極天皇以前は、終身在位にて、群臣が継承者を選んで即位していたのに対し、皇極天皇の譲位により、群臣の介在がなくなり、天皇の選んだ者に譲るという方法を取る事になりました。そして、皇極天皇は、孝徳天皇に譲位しますと、「皇祖母尊」が奉呈され、譲位後も「君」として、臣下より忠誠の誓いを受けるという立場を取っていました。

次に、中大兄「皇太子」への疑問については、浄御原令（六八九年）で皇太子制が成立した後、最初の皇太子は持統であり、天武の孫は、六九七年八月

に「策を禁中に定めて、皇太子に譲位」をして、十五歳で天皇に即位しています。

また、皇極天皇は、譲位後に、孝徳天皇とともに改新の功績者を讃え、自身が舒明天皇の継承者である事を誇示したと講義されました。

最後に、天皇陵を八角墳にした理由についても説明され、「天下を治める。」という象徴を表していると結んでいました。

公開講座「天皇と皇族」感想文

秋期教養コース（文京）受講生 井村 卓二さん

3回の講義それぞれが興味深い内容でした。

受講後の感想は、「現在伝統と言われるものが必ずしも古くから継承されているものではない」でした。歴史を見る目に関し啓発される点が多く、内容が濃いものだったと思います。印象的だったのは①天皇即位式が明治時代までは、中国風や仏教式であり女官も重要な位置を占めていた②皇后の役割が明治以降理想像を求められていた③古代の天皇家は男系女系というより双系であった、です。今後の天皇家のあり方について伝統を重視するか新しい考えを採用するか多くの議論がありますが、見方を変えれば、古くからの考え方に基きつつ将来にも通用する何かが見いだせるのでは、と考え始めています（特に女性天皇女系天皇を認めるか否かについて）歴史は単に過去を辿るのではなく、現在将来の社会や政治等の在り方のヒントを過去から見出す作業であることに気づきました。講義後もいろいろ考えさせられる内容でした。

「皇極 自らの王統を作り出した古代の女帝」に関するレポート

秋期教養コース（文京）受講生 川原 範弘さん

奈良県の地理・歴史に興味があるので、今回受講した。

皇極天皇は、互いに押坂彦人大兄皇子の血を引く

舒明天皇と結婚した。当時は、一族の結束を図るために、母親が違えば血族結婚も厭わなかったとのこと。舒明天皇崩御(641年)に際し自ら皇極天皇として即位し、その後の乙巳の変(645年)で同母弟の孝徳天皇に譲位した。いずれも、子の中大兄皇子に即位させるチャンスだったのだが、それを見送っている。当時は40歳前後で即位するのが慣例だったのが理由だが、今より平均寿命が短いのに、意外だと思った。

譲位後は、皇祖母尊(すめみおやのみこと)として、孝徳天皇の後ろ盾となり、また、中大兄皇子を皇太子に据え、引き続き権力を保った。不仲となっていた孝徳天皇が病死すると、655年に斉明天皇として重祚する。その後、658年に孝徳天皇の子である有間(有馬)皇子を謀反の疑いで処刑し、斉明天皇と中大兄皇子の体制を固めていく。このような強硬策も取っていたのである。

この頃、斉明天皇主導での土木工事が相次ぎ、石垣を石上山から運ぶために掘った渠(溝)は「狂心(たぶれごころ)の渠(みぞ)」と揶揄された。しかし、大土木工事は外交儀礼・饗宴の場を作り、国外からの使節や北方の蝦夷に威容を示す、という目的があった。私はこの話を聞いて、同時期に作られたとされる、飛鳥に点在する亀石、猿石等の石造物の意義・目的も知りたくなった。

皇極天皇以降、押坂彦人大兄皇子を共通の祖とする双系(父系かつ母系)的な王統が天智・天武朝以降続くことになる。その意味で、皇極天皇は、後世に多大な影響を及ぼした天皇だったと言える。

天皇と皇族

秋期教養コース（文京）受講生 瀧上 浩司さん

日本の代表的な氏は1000年遡る源平藤橘ですが、源平橘の先祖で古代から現代まで続く皇室が臣下とどう関わってきたか、新時代の幕開けに相応しいテーマでした。

第1回は現代と幕末までの即位儀礼。三種の神器は歴代天皇が継承してきた八咫鏡(やたのかがみ)・八尺瓊勾玉(やさかのまがたま)・草薙剣(くさなぎ

のつるぎ)ですが、壇ノ浦の戦いで源義経が時子の草薙剣(形代)を持っての入水を阻止できず、後に別の剣を新たに草薙剣の形代とした事や、南北朝時代に後醍醐天皇は拒絶したが、後に南朝が優勢だった北朝に偽物の神器を渡した事があるらしいです。

講座の主旨はほぼ唐の在り方に倣った儀式の設備や装飾品、服装などが桓武天皇から孝明天皇まで続いた事なのですが、平坦な道のりではなかったようです。

第2回は近代の皇后。お江と豊臣秀勝との間にできた女子が九条幸家の元に嫁いで、その子孫が貞明皇后であり、浅井・織田・豊臣の血を引いているのですが、近江の六角氏が室町幕府軍に侵攻されて伊賀に逃れたり、織田信長に侵攻されて甲賀に逃れたり生き残りが難しい地域から浅井氏が表舞台に出た訳です。

講座の主旨は昭憲皇太后が女子教育制度を始めた事、日本赤十字社の設立など、公共の福祉を主導した事なのですが、病弱な大正天皇を支えて昭和天皇を見守った戦国浅井氏の女系子孫である貞明皇后にも着目したいです。

第3回は皇極-自らの王統を作りだした古代の女帝。丁未の乱で物部守屋が殺され、大化の改新で蘇我蝦夷・入鹿父子が滅んだのですが、それは嫡流の話であって壬申の乱後に物部氏から改めた石上氏が奈良時代末頃まで活躍して、蘇我馬子の孫である蘇我赤兄と蘇我連子が天智天皇の時代に大臣に任じられているのです。

講座の主旨は舒明天皇と皇極天皇の間に生まれた第二皇子である中大兄皇子が改新直後に即位できなかった事なのですが、蘇我の分家を味方に引き入れた難しい状況もあると考えます。

以上のことから日本史は嫡流が絶えた事を教えるのですが、実は傍流によって歴史が作られている事を考える機会になりました。

On VERSATILITY as my impression of having attended Chinese Course

秋期語学コース(中国語会話) 受講生
鐘 圧力山 大さん

As the topic of my essay is on VERSATILITY, I hazard English in expressing myself even though I am a dyed-in-the-wool Japanese who has been learning Chinese exclusively in Tokyo.

Japan is said to be uniquely homogenous in the world thanks mainly to its geographical background as an insular country being surrounded by seas on each and every side. Thus, we can easily distinguish Japanese from aliens who speak different tongues. In this context, learning foreign languages can still be held in esteem in this island nation.

The situation, however, is changing rapidly due to frequent daily communication with outside world on an easy footing such as Internet. In other words, mingling with other peoples on various soils under any conditions regardless of our preference has now become a prerequisite for the basis of nation's existence.

A foreign language, whatever it is, which is used in daily business is just a means of communication, thus it would be maneuvered after a fashion by almost all guys in a very near future on account of recent phenomenal development of AI technology, even though I do not deny the necessity of sophisticated dialogue between flesh-and-blood persons in which evasive expressions are peppered as a tactic so as to avoid a commitment to the other side.

In this sense, what is now being required is not a command of a foreign language, but an acceptance

of versatility. Even in Philosophy of Atomi University uploaded in the school Website has a following stipulation:

~ the University recognizes its greatest social contributions: nurturing deep insights into the age and societies in which we live ~

To be honest, I have failed in acquiring an adequate command of practical Chinese despite my attendance at the course in repeated semesters. I know I am responsible for this failure since my efforts toward achieving the end has fallen short both in quality and quantity. I, however, am very pleased to have learnt a lot about Chinese history and culture under Professor Li Zhenxi through his ardent lectures, consequently his instruction has led me to such versatile world of the civilization of the Middle Kingdom which has been built over the past several millennia in an unbroken line by Chinese-speaking people all over the world who recognize themselves as Huaren or 華人。

This is the reason why I speak so highly of this course. The more I appreciate the course, the more I regret the decision by school management to discontinue such precious educational opportunities. Right from the start, Atomi has been opened to only females, thus voluntarily limiting itself from getting versatile in a broader way in this world of equality between the sexes. I must say such conclusion should be against the tide of history. Hence, I am imploring the school management for giving a second thought.

Though I am not always content with the present situation as I mentioned in the above, I am ending this paper by thanking everybody for giving me such splendid chances to find joy in learning through interacting with talented and interesting

fellows in every walk of life.

多谢。多谢。

迹见女子大学公开讲座历程(跡見女子大学公開講座のあゆみ)

**秋期語学コース(中国語会話)受講生
並木 信子さん**

本講座は、バスの吊革広告で知り、第2回から参加しました。中国へ家族旅行をした際に、中国の人たちと会話をしてみたいと思ったからです。毎年参加して気が付くと15年間、講座の終了に当たり学習内容を表にまとめてみました。

講師の李老師が提示された教材は、初級会話から始まり、語学だけでなく中国の歴史・文化・芸術・食・地理・世情など多方面に広がりました。毎年、老師が教材の選択、授業の充実にとてもご苦労されていることは、受講生が等しく感じました。閉講に当たり、普通の暮らしでは接点のない皆さんと友人となり、和気藹々と講座を受講した日々を人生の糧にできたことを感謝申し上げます。

			班	老师	内容	備考
1	2004年春		初級	李 振溪		
			中級	张 国璐	场景对话	
2	2004年秋		初	李 振溪		
			中	张 国璐	连续剧台词	
3	2005年春		初	张 国璐	拼音, 基础语法, 基本对话	初级的学习内容每次差不多一样
			中	李 振溪	我的一天 自我介绍	
4	2005年秋		初			
			中	李 振溪		
5	2006年春		初			
			中		人物描写	
6	2006年秋		初			
		日常会話の中国語	中		漫画历史上人物 孔子 秦始皇帝 诸葛亮 玄奘 林则徐 毛泽东	
7	2007年春		初			
			中		人民日报 网络版 回望2006: 我最满意(失意)的... 《女儿终于上学了》《找到了安享晚年的好地方》《开了个博客》等	
8	2007年秋		初			
			中		现代中国的各种问题《人民币升值的意义》《社会怪像: 三十不立族》《中日亲善大使—福原爱》等	
9	2008年春		初			
			中		中国笑话1《01 你的生日几月几号?》	
10	2008年秋					
					中国笑话2	
11	2009年春					
					中国笑话3	
12	2009年秋					
					中国笑话4《64 怎么办? 怎么拌?》	
13	2010年春		初			
			中		数字 双管齐下 一字之师、 孟母三迁 不为五斗折要 三从四德 六月的雪	
14	2010年秋		初			
			中		颜色 《白头吟》《黄鹤楼》《红娘》《黄粱一梦 黄粱美梦》《颜色的含义》	

15	2011年春		初			
			中		东南西北 《东食西宿》《南辕北辙》《东西的由来》《大话徐福东渡》	天津旅游(8、19~23)
16	2011年秋		初			
			中		旅行 《说旅游·学汉语》	
17	2012年春		初			
			中		普通话测试说话范文《学习普通的话的体验》《我最喜欢听的一首歌》《我的拿手菜》《我的业余生活》	文集《心叶集》
18	2012年秋					
			中		心灵鸡汤 《至少平静》《只要努力》《学会沉默》《不想如果》《保持单纯》《偶尔俗气》《偶尔出轨》机不可失	文集 《心灵鸡汤》
19	2013年春					
		歌で習う中国語	中		《荷塘月色》荷花吟咏 《河花仙子》《荷塘月色》	
20	2013年秋					
		アラカルト 応用中国語	中		菊花歌曲 菊花吟咏 陶渊明《饮酒》《聊斋志异》菊仙故事《黄英》	
21	2014年春					
		風趣をたのしむ 中国語	中		马的成语 马的诗词 马的歇后语 马的故事	
22	2014年秋					
			中		马的故事 动物笑话 马的故事 动物笑话	
23	2015年春				绕口令 汉诗 笑话 人民日报海外版 历志公益广告 中国短片《把乐带回家》	
24	2015年秋				唐诗 汉语幽默 中国微小说 中国短小说 中检篇	
25	2016年春				回文诗 幽默故事 中国菜奇怪菜单 微小说	
26	2016年秋				秋词 中国四季 少数民族 中国曲艺	
27	2017年春				诗词 古典 春天秋天的散文	
28	2017年秋				诗词 中国四大名著 《三国演义 水浒传 西游记 红楼梦》	
29	2018年春				春天唐诗 中国农作物 中菜调理法 世界的国名 人民日报海外版 防灾手册 秋天的散文《秋赋》	
30	2018年秋				秋天的唐诗 莎士比亚剧的台词 《罗密欧与朱丽叶》人民日报海外版《别让“狗趣”成为“狗患”》中国小学和初中的课本《生命 生命》散文《江南的冬景》	
31	2019年春				《万叶集》梅花歌32首并序 唐诗《远烟》 汉语幽默 中国报纸散文《从前慢》	文集《信》
32	2019年秋				节季与生活 关于节季的汉诗和散文 菜谱 《红楼梦》	

エクセル講座を受講の感想

春期パソコンコース（新座）受講生 渡邊 博之さん

2019年4月からの3回Excel入門コースに参加でき今までの頭のもやもやがなくなりました。

過去にMicrosoft Office2000 友達からもらい使用しWindows 10からはOffice 2013年を利用。過去の入力したセルに別の内容を入力すると意図しない表示になりどうすればいいかわからず15年以上経ちます。書籍を読むこと自体が苦手の私です。わからないところを検索するにもどう表現して調べればいいのかわからないでいました。誰かに教わらないといけないとずっと思っていました。講座に参加させて頂いて本当に良かったです。グラフもこんなにも簡単に作成することができることを知り少し驚きました。質問をしなくても済む講座内容でした感謝しています。

Excel入門講座を受講して

秋期パソコンコース（文京）受講生 富澤 佳代さん

十月の末、東武東上線内で、跡見学園女子大学にて「Excel入門講座」が文京キャンパスで実施されることを知り急いで応募しました。

以前からもう少し「Excel」を極めたいと思っていましたが、中々チャンスがなかったのでこの機会に受講したいと思いました。

文京キャンパスに足を踏み入れたのは初めてでしたが、立派な建物で、その中で私が使わせて頂いたパソコン教室は数十台のパソコンが完備されていて、すごく感心いたしました。

「Excel」の講座では、パソコン全般の初歩的な使い方を始め、今まで知っていたようで完全には理解していなかったオートフィルターや関数、グラフの作り方等を教わりとても参考になるものが多くありました。他にも、講師柴田先生お手製のテキストや、

指導補助をして下さるスタッフの方々の丁寧な説明により、理解が深められました。宿題的な問題も

出されたので出来るだけ取り組み、終わらなかった問題はこれから行っていこうと思います。

この度は講師の柴田先生を初め、学園関係の方々、スタッフの方々、本当に有難うございました。来年以降この講座が開講されないという話を耳にしましたが、再度開講されることを願っております。

■ 資料



2019年度 春期

跡見学園女子大学の公開講座のご案内

時間 13:00~14:30 場所 文京キャンパス
対象 15歳以上(中学生を除く)の男女 定員 100名(定員になり次第締切り)

2019年
6/22~7/6
毎週土曜日
(全3回)

受講料：無料

都市のコミュニティを考える

6/22 [土] 町内会・自治会のいま
講師：本学観光コミュニティ学部コミュニティデザイン学科教授 露理恵子
現代日本社会において、町内会・自治会に求められる役割はどのようなものか。人と人のつながりをどう作ればよいか。子どもから高齢者まで、障害の有無・年齢・ジェンダー・国籍等の違いを超えて、それぞれに暮らしやすい地域や社会をどう創るか。子ども食堂や学習支援のとりくみに例に具体的に考えてみよう。

6/29 [土] コミュニティの防災力を高める
講師：本学観光コミュニティ学部コミュニティデザイン学科教授 鍵屋一
大きな被害をもたらす首都直下地震は30年間に70%の発生確率です。一方で、コミュニティは急速な高齢化、町内会・自治会活動への参加の低下、消防団員の減少が続いています。災害時には、高齢者、障がい者などの安否確認、避難支援、避難生活の支え合いが不可欠ですが、どこも心配です。では、どうすれば良いのか。一緒に考えてまいります。

7/6 [土] 新旧住民がつくる街のかたち
講師：本学観光コミュニティ学部コミュニティデザイン学科教授 佐野美智子
東京都心部では高層マンションの増加が続いている。新しいマンションの入居者には、学齢前や学齢期の子供がいる若い世帯が多い。地域との繋がりが必要とする年齢層だ。一方、地域に古くから住む人々では高齢化が進む。新旧住民の年齢差や世代差は、地域のあり方どのように変えていくのだろうか。2018年夏に本学学生が実施した「大塚3丁目地域満足度調査」結果をもとに考える。

【教養コース】 ●全3回、全てに出席された受講者には、公開講座修了証を発行いたします。
【受講者特典】 ●今学期(2019年9月末日まで)内に限り本学図書館を利用することができます(閲覧のみ)。

後援：文京区・公益財団法人文京アカデミー

申込方法
受付期間

申込方法 往復はがき、FAX、Webのいずれかに下記の事項をご記入の上お申し込みください。

- ①「都市のコミュニティを考える」受講希望
②氏名(フリガナ) ③郵便番号・住所 ④電話番号
⑤性別 ⑥年齢 ⑦職業
⑧どちらで本講座をお知りになりましたか?
⑨次回以降の本学公開講座のご案内を希望しますか?

受付期間 4月3日(水)より受付(定員になり次第締切り)

※受講申込み受付後、はがきにて受講証を郵送いたします。
※お申し込み頂いた方々の個人情報は、跡見学園女子大学文京キャンパス事務局公開講座係にて、講座案内の他、運営に必要な範囲で適切に管理し、使用いたします。個人情報については同意なしに第三者に開示・提供することはありません(法令などにより開示を求められた場合を除く)。
※悪天候等、不測の事態が生じた場合には、大学HPに中止や時間繰り下げ等の情報を掲載します。

文京キャンパスへのご案内



<申込・照会先>



跡見学園女子大学
文京キャンパス事務局 公開講座係
〒112-8687 東京都文京区大塚1-5-2
TEL.03-3941-7420
FAX.03-3941-8333
E-mail: d-kyomu@mmc.atomi.ac.jp
http://www.atomi.ac.jp/univ/

申込方法
受付期間

教養コース 往復はがき、FAX、Webのいずれかに下記の事項をご記入の上お申し込みください。

- ①「天皇と皇族」受講希望 ②氏名(フリガナ) ③郵便番号・住所
④電話番号 ⑤性別 ⑥年齢 ⑦職業 ⑧どちらで本講座をお知りになりましたか?
⑨次回以降の本学公開講座のご案内を希望しますか?

受付期間 8月26日(月)より受付(定員になり次第締切り)

パソコンコース 往復はがきにて下記の事項をご記入の上お申し込みください。

- ①「Excel入門(文京)」受講希望 ②氏名(フリガナ) ③郵便番号・住所
④電話番号 ⑤性別 ⑥年齢 ⑦職業 ⑧どちらで本講座をお知りになりましたか?
⑨次回以降の本学公開講座のご案内を希望しますか?

受付期間 10月1日(火)~10月30日(水) 必着

※教養コースは、受講申込み受付後、業書にて受講証を郵送いたします。
※お申し込み頂いた方々の個人情報は、跡見学園女子大学文京キャンパス事務局公開講座係にて、講座案内の他、運営に必要な範囲で適切に管理し、使用いたします。個人情報については同意なしに第三者に開示・提供することはありません(法令などにより開示を求められた場合を除く)。
※悪天候等、不測の事態が生じた場合には、本学HPに中止や時間繰り下げ等の情報を掲載します。

文京キャンパスへのご案内

※駐車場がないため、自家用車のご来校はご遠慮ください。



<申込・照会先>



跡見学園女子大学
ATOMI UNIVERSITY
文京キャンパス事務局 公開講座係
〒112-8687 東京都文京区大塚1-5-2
TEL.03-3941-7420
FAX.03-3941-8333
E-mail: d-kyomu@mmc.atomi.ac.jp
http://www.atomi.ac.jp/univ/

令和元年度 秋期

跡見学園女子大学の公開講座のご案内



教養コース (文京キャンパス) 天皇と皇族
時間 13:00~14:30 場所 文京キャンパス
対象 15歳以上(中学生を除く)の男女 定員 100名(定員になり次第締切り)

※全3回、全てに出席された受講者に公開講座修了証を発行いたします。
※今学期(令和2年3月末日まで)内に限り本学図書館を利用することができます(閲覧のみ)。

この公開講座では、天皇の代替わりに伴って天皇と皇位に対する関心が高まることに加え、三つの側面から学問的な解説を提供いたします。第1回は、天皇の地位の継承に際して行われる儀式。第2回は、近代における皇后の地位、そして第3回は、古代における女帝と皇統の継承の問題を取り上げます。

12/7 [土]

現代と幕末までの即位儀礼
講師：本学文学部人文学科教授 三谷博
日本における天皇の地位は三段階の儀礼を経て継承されてきた。踐祚・即位礼・大嘗祭である。踐祚とは新帝が先帝から剣と笏の神器を引き継ぐことで、その瞬間に地位の継承は完了する。即位礼は皇位の継承を臣下に対して公表する儀式である。新帝は正殿に設けられた高閣に登壇し、誓いを立てた皇下の前に跪いて、その誓いを受け、その後、殿上で盛大な宴を設ける。大嘗祭は新帝が後を繼いで八百万の神々を饗い、統治の安寧を祈る祭儀である。この大嘗祭は現代も継承されているが、その姿は時代ごとに変化してきた。即位礼にも用いる衣類、宮殿や庭のつくりは、長い間、東アジア共通の中国風であったが、明治天皇以後は少しずつ変化し、今はかなり西洋風となっている。その姿と家と外国との関係も視野に置きながら解説したい。

12/14 [土]

近代の皇后
講師：本学文学部人文学科教授 真辺美佳
今日のように、皇后が多くの人の前にその姿を現すようになったのは明治時代になってからのことである。19世紀初めから、日本が国際社会に組み込まれ、国家や社会が近代化を担っていった中で、皇后の役割は変化を余儀なくされたことだった。本講座では、近代化のなかで皇后がどのような立場で置かれたのか、今日まで引継がれていること、あるいは変化したことなども講義して、皇后の果たした歴史的役割と意義について述べてみたい。

12/21 [土]

皇極—自らの王統を作りだした古代の女帝
講師：帝京大学名誉教授 義江 明子
古代で二番目の女性天皇皇極は、645年の乙巳の宴の直後、退位して同母弟の稚(孝德天皇)に天皇位を譲る。退位後も「皇祖母尊」として王権中枢に重きを置き、のちに孝徳と不和になると、再び即位(高祖天皇)。新羅・高麗連年の戦いの最中に、筑紫の熊襲基地で病歿した。息子の天智・天武につながる王統を、自ら作り出した女性である。

令和元年 11/9~30 (11月23日は除く) 各土曜日 (全3回)

パソコンコース (文京キャンパス) Excel入門
講師：本学兼任教員 柴田 徹
時間 13:00~16:10 場所 文京キャンパス
対象 15歳以上(中学生を除く)の男女 定員 38名

※全3回、全てに出席された受講者に公開講座修了証を発行いたします。
※今学期(令和2年3月末日まで)内に限り本学図書館を利用することができます(閲覧のみ)。

本講座では、「Wordは何が使えるのか」と、Excelはほとんど(または、まったく)使ったことがないという方々を対象に、操作の基本、表の作り方、数式や関数を使った計算のしかた、グラフの作りかたなど、Excelの基本中の基本を、講義と実習を通して、懇切に指導します。本講座の学習を通して、Excelで簡単な数式や関数、グラフなどが扱えるようになりましょう。
※Word、Excelは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商品名または登録商標です。

後援/文京区・公益財団法人文京アカデミー

11/9 [土]
11/16 [土]
11/30 [土]

受講料：無料



2019年度 春期

跡見学園女子大学の公開講座のご案内

2019年
5/18~6/1
毎週土曜日
<全3回>

企業と学生が連携し課題を解決する事例を紹介
教養コース
産官学連携の
成功事例に学ぶ

2019年
4/20・27・5/11
各土曜日
<全3回>

表やグラフの作成を習得しパソコンをさらに活用しよう
パソコンコース
Excel入門

2019年
5/18~7/20
毎週土曜日
<全10回>

国際理解の輪が広がる
語学コース
英会話／中国語会話
朝鮮・韓国語会話

後援/埼玉県教育委員会・新座市教育委員会

申込方法 受付期間

教養コース

往復はがき、FAX、Webのいずれかに下記の事項をご記入の上お申し込みください。
①産官学連携の成功事例に学ぶ 受講希望 ②氏名(フリガナ) ③郵便番号・住所 ④電話番号 ⑤性別 ⑥年齢
⑦職業 ⑧どちらで本講座をお知りになりましたか? ⑨次回以降の本学公開講座のご案内を希望しますか?
受付期間 4月3日(水)より受付(定員になり次第締切)
※教養コースは、受講申込受付後、葉書にて受講証を郵送いたします。

パソコンコース

往復はがきに下記の事項をご記入の上お申し込みください。
①「パソコンコース」受講希望 ②氏名(フリガナ) ③郵便番号・住所 ④電話番号 ⑤性別 ⑥年齢
⑦職業 ⑧どちらで本講座をお知りになりましたか? ⑨次回以降の本学公開講座のご案内を希望しますか?
受付期間 4月3日(水)~4月11日(木) 必着
※パソコンコースは、応募者多数の場合は抽選となります。

語学コース(英会話/中国語会話/朝鮮・韓国語会話)

往復はがきに下記の事項をご記入の上お申し込みください。
①希望講座名(例:英会話中級A) ②氏名(フリガナ) ③郵便番号・住所 ④電話番号 ⑤性別 ⑥年齢
⑦職業 ⑧どちらで本講座をお知りになりましたか? ⑨次回以降の本学公開講座のご案内を希望しますか?
受付期間 4月3日(水)~5月7日(火) 必着
※語学コースは、応募者多数の場合は抽選となります。
※お申し込み頂いた方々の個人情報は、跡見学園女子大学教務部教務課公開講座係にて、講座案内の他、運営に必要な範囲で適切に管理し、使用いたします。個人情報については同意なしに第三者に開示・提供することはありません(法令などにより開示を求められた場合を除く)。
※悪天候等、不測の事態が生じた場合には、大学HPに中止や時間繰り下げ等の情報を掲載します。

新座キャンパスへのご案内

※地球温暖化防止のため、自家用車での来校はご遠慮ください。

●東武東上線(地下鉄有楽町線・副都心線)
「志木駅」下車 南口より西武バス約15分
「跡見学園女子大学」下車

●JR武蔵野線
「新座駅」下車 北口よりバス約7分



●西武線
「所沢駅」下車 東口より西武バス約25分「跡見学園女子大学」下車

<申込・照会先>

跡見学園女子大学
教務部教務課 公開講座係

〒352-8501 埼玉県新座市中野1-9-6
TEL. 048-478-3340
FAX. 048-478-4133
E-mail: d-kyomu@mmc.atomi.ac.jp
http:// www.atomi.ac.jp/univ/

跡見学園女子大学の春期公開講座

企業と学生の関わりを知り、語学やパソコンを活用して地域活性化の一助を担う

教養コース

2019年5月18日、25日、6月1日 毎週土曜日 <全3回>
時間 13:00~14:30 場所 新座キャンパス 対象 15歳以上(中学生を除く)の男女
定員 100名 受講料 無料

産官学連携の成功事例に学ぶ

5/18(土) 第1回 インターンシップを活用した産学連携
講師: 本学マネジメント学部マネジメント学科教授 山澤 成康
マネジメント学部では2002年度から必修でインターンシップを行っています。2年生の夏休み、最低2週間のインターンシップは、大学や企業にどのような効果があったのかを検証します。また、インターンシップによって学生の意識がどう変わったのか、進路決定にどう影響したのかも紹介します。

5/25(土) 第2回 PBL(問題解決型授業)を活用したマーケティング提案事例
講師: 元本学マネジメント学部マネジメント学科教授 山田 満
PBLとは学生らしい発想や消費者意識から企業や自治体の抱える課題の解決策を提案する自主的な活動を指します。PBLは企業にとって思いがけない解決策を指すことができるだけでなく、学生にとって社会人へのプレゼンする貴重な体験となります。本学在職中に実施した豊富な事例を紹介し、その成功のための秘訣を考えます。

6/1(土) 第3回 企業と連携した商品開発
講師: 本学マネジメント学部マネジメント学科准教授 許 伸江
当ゼミでは豊田区の皮革なめし工場や革小物メーカーと連携し、学生による商品開発と販売を約6年間継続して行っています。全国に広がるインシヤシカなどの農作物被害が問題になる中、それらの皮を資源にし、地域産業の活性化を図る試みでもあります。講座では、これらの活動の経緯や成功のポイントなどについて説明します。

教養コース受講者特典 ●全3回、全てに出席された受講者には、公開講座修了証を発行いたします。
●今学期(2019年9月末日まで)内に限り本学図書館を利用することができます(閲覧のみ)。

パソコンコース

2019年4月20日、27日、5月11日 各土曜日 <全3回>
時間 13:00~16:10 場所 新座キャンパス 対象 15歳以上(中学生を除く)の男女
定員 38名 受講料 無料

Excel入門

簡単な計算と見やすい表とグラフの作成
講師: 本学文学部人文科学科教授 長谷川 幸代
普段、Wordでの文章作成やインターネットの利用はするけれど、Excelには馴染みがないという方向けに、導入から簡単な関数を利用した計算、見やすい表とグラフの作成について、分かり易く実習します。
Excelの基礎を習得して、パソコンをさらに便利に楽しく活用しよう。
※Word、Excelは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

パソコンコース受講者特典 ●全3回、全てに出席された受講者には、公開講座修了証を発行いたします。
●今学期(2019年9月末日まで)内に限り本学図書館を利用することができます(閲覧のみ)。

語学コース

2019年5月18日~7月20日 毎週土曜日 <全10回>
時間 ①13:00~14:30/②14:40~16:10 場所 新座キャンパス
対象 15歳以上(中学生を除く)の男女 定員 各クラス20名 受講料 15,000円

英会話

中級A Themes in American Culture
(時間①) 講師: 本学兼任教員 Kevin Scott
This course has two main aims. (1) to improve students' reading, writing, speaking, and vocabulary skills. (2) to familiarize students with various themes in American culture. Each lesson will examine a different theme in American culture—with weekly reading selections, listening/speaking exercises, and worksheets. Students will work individually and together. They will be given both required and optional homework assignments. Class will be conducted exclusively in English, and geared toward active student participation. Students will work individually, in pairs, and in small groups.

中級B Discussing Sustainable Development
(時間②) 講師: 本学文学部コミュニケーション学文化科助教 Colin Macleod
In 2015, the Sustainable Development Goals were created by the United Nations to help promote both human prosperity and protection of the environment. The goals cover key issues such as poverty, health, education, equality, and climate change. In this class we will discuss these goals to try to understand why they matter. We will consider the targets that have been set for each goal and the indicators being used to measure our progress towards achieving them. We will use recent news stories as case studies to help us see each goal at a community level, not just a macro level.

中国語会話

初級 風流・情趣をたのしむ中国語
(時間①) 講師: 本学兼任教員 李 振漢
中国語と中国文化をもっと知りたい。バラエティな角度から中国語を覚えたい。習ったことをもっと活かして、中国人と交流したい。中国語検定に挑戦してみたい。こんな方はぜひ参加して、国際理解の輪を広げましょう!

朝鮮・韓国語会話

初級 楽しく学ぼう韓国語会話
(時間②) 講師: 本学兼任教員 荻野 千尋
ハングル文字を学んだことがあり、基礎的な会話力を身につけたい方を対象とした初級レベルの講座です。物の名を覚えたり、簡単な文章を作ったり、グループワークを行ったりしながら韓国語に自然に慣れていきます。これらの活動を経験することで、韓国語や韓国により興味が高まり、ドラマや音楽を視聴する際にも楽しさが増すでしょう。

語学コース受講者特典 ●開講回数の8割以上出席された受講者に公開講座修了証を発行いたします。
●今学期(2019年9月末日まで)内に限り本学図書館を利用することができます(閲覧のみ)。

※語学コースの各講座の詳細内容は本学ホームページをご覧ください。



跡見学園女子大学
ATOMI UNIVERSITY

令和元年度 秋期

跡見学園女子大学の 公開講座のご案内

国の歴史を踏まえた遺産の在り方を知る 教養コース 世界遺産(産業遺産)と観光

文化を理解し会話を身につける 語学コース 英会話／中国語会話 朝鮮・韓国語会話

共催／新座市教育委員会(教養コースのみ)
後援／埼玉県教育委員会・新座市教育委員会・埼玉まなびプロジェクト協賛事業

令和元年

10/12
10/26

毎週土曜日
〈全3回〉

令和元年

10/5
12/21

11月2日・23日は除く
各土曜日
〈全10回〉

申込方法 受付期間

教養コース

往復はがき・FAX・Webのいずれかに下記の事項をご記入の上お申し込みください。
①「世界遺産(産業遺産)と観光」受講希望 ②氏名(フリガナ) ③郵便番号・住所
④電話番号 ⑤性別 ⑥年齢 ⑦職業 ⑧どちらで本講座をお知りになりましたか?
⑨次回以降の本学公開講座のご案内を希望しますか?

受付期間 8月26日(月)より受付(定員になり次第締切)

語学コース(英会話／中国語会話／朝鮮・韓国語会話)

往復はがき・FAX・Webのいずれかに下記の事項をご記入の上お申し込みください。
①希望講座名(例:英会話中級Aコースなど) ②氏名(フリガナ) ③郵便番号・住所
④電話番号 ⑤性別 ⑥年齢 ⑦職業 ⑧どちらで本講座をお知りになりましたか?
⑨次回以降の本学公開講座のご案内を希望しますか?

受付期間 8月26日(月)～9月18日(水) 必着

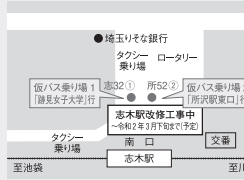
※教養コースは、受講申込み受付後、要書にて受講証を郵送いたします。
※語学コースは、応募者多数の場合は抽選となります。
※お申し込み頂いた方の個人情報、跡見学園女子大学教務部教務課公開講座係にて、講座案内の他、運営に必要な範囲で適切に管理し、使用いたします。個人情報については同意なしに第三者に開示・提供することはありません(法令などにより開示を求められた場合を除く)。
※悪天候等、不測の事態が生じた場合には、本学HPに中止や時間繰り下げ等の情報を掲載します。

新座キャンパスへのご案内

※地球温暖化防止のため、自家用車での来校はご遠慮ください。

●東武東上線(地下鉄有楽町線・副都心線)

「志木駅」下車 南口より西武バス約15分
「跡見学園女子大学」下車



※工事の進捗により、乗り場が変更になる可能性があります。

●西武線

「所沢駅」下車 東口より西武バス約25分「跡見学園女子大学」下車

●JR武蔵野線

「新座駅」下車 北口よりバス約7分



<申込・照会先>



跡見学園女子大学

ATOMI UNIVERSITY

教務部教務課 公開講座係

〒352-8501 埼玉県新座市中野1-9-6

TEL. 048-478-3340

FAX. 048-478-4133

E-mail: d-kyomu@mmc.atomi.ac.jp

http://www.atomi.ac.jp/univ/

跡見学園女子大学の秋期公開講座は教養コースと語学コース

教養コース

令和元年10月12日～10月26日 毎週土曜日〈全3回〉

時間 13:00～14:30 場所 新座キャンパス 対象 15歳以上(中学生を除く)の男女

定員 100名(定員になり次第締切)

受講料 無料

世界遺産(産業遺産)と観光

10/12 [土] ドイツの産業遺産と観光

講師: 元本学観光コミュニティ学部観光デザイン学科教授 種田 明

ドイツに世界遺産は44件(自然3、文化41、複合0)あります。また観光と文化に強く結びついた様々な街道があります: ロマンチック街道、ワイン街道、メルヘン街道、古城街道等々。本講では近年、EUと各国(ドイツ)が力を入れているERIH(ヨーロッパ産業遺産の道-ドイツ編)を紹介し、世界遺産のもう一つの別の見方・楽しみ方をお話します。

10/19 [土] イタリアの世界遺産と観光

講師: 本学観光コミュニティ学部観光デザイン学科教授 河村 英和

世界遺産登録件数トップを保持し続けるイタリア。年代による傾向、登録前後では都市やエリアにどのような変化があったのか。訪れる外国人はどのような文化的受容を果たしていったか。イタリアの遺産が芸術作品の題材、文学の舞台、映画のロケ地となった事例や、国外で複製される観光名所など、国境を越え世界に及ぼす影響も含め、イタリア観光の歴史から最新トレンドまでを探ってゆきます。

10/26 [土] 百舌鳥・古市古墳群

講師: 本学観光コミュニティ学部観光デザイン学科教授 鶴田 雅昭

今年、世界文化遺産として登録される百舌鳥・古市古墳群は、百舌鳥(堺)エリアの23基と古市(羽曳野・藤井寺)エリアの26基からなる古墳群です。このうち大仙古墳は宮内庁の管理下にありますが、他の48基の古墳のなかには宮内庁の管理から外れたものが少なくありません。これを踏まえ、何故、今、百舌鳥・古市古墳群を世界遺産に登録するのかを考えていきます。

教養コース受講者特典

- 全3回全てに出席された受講者には、公開講座修了証を発行いたします。
- 今学期(令和2年3月末日まで)内に限り本学図書館を利用することができます(閲覧のみ)。

語学コース

令和元年10月5日～12月21日(11月2日・23日は除く) 各土曜日〈全10回〉

時間 ①13:00～14:30 ②14:40～16:10 場所 新座キャンパス

対象 15歳以上(中学生を除く)の男女 定員 各クラス20名 受講料 15,000円

英会話

中級A Themes in Modern World History

(時間①) 講師: 本学兼任教員 Brian Sayers

The aim of course is to provide students with both the tools and the platform to analyze and discuss controversial issues in Modern World History. In order to realize our position in an increasingly globalized society, it is imperative that we try to understand the factors and events that shaped the Modern World. The study of History in this course will develop students' critical thinking skills and at the same time provide them with a deeper understanding of what it means to share a common humanity. This course will chart some of the major political, social, and economic changes that took place in Western Countries during the modern period and will show how these changes impacted upon the rest of the world. It will adopt both a thematic and a broadly chronological approach. Course themes will include Colonialism and Slavery, Enlightenment and Revolution, Evolution and Imperialism, Liberal Democracy and Authoritarianism, Independence and Nation building. Case studies of individual countries will provide concrete examples of the general themes discussed. This course will involve the analysis of primary source documents related to the themes studied in class. Students are also required to write an essay and give a short presentation on it.

中級B Controversial Issues in the USA

(時間②) 講師: 本学兼任教員 Kevin Scott

Each lesson will examine a single controversial issue. Students will receive weekly reading/writing assignments, listening/speaking exercises & worksheets. They will be expected to work both individually and together in groups. They may be asked to give short presentations during the final class.

中国語会話

中級 風流・情趣を楽しむ中国語

(時間①) 講師: 本学兼任教員 李 振漢

中国語の基礎と中国文化を幅広く知りたい。バラエティな角度から中国語を覚えたい。習ったことを活かして、中国人と交流したい。中国語検定に挑戦してみたい。こんな方はぜひ参加して、中国理解の輪を広げましょう!

朝鮮・韓国語会話

中級 楽しく学ぼう韓国語会話

(時間②) 講師: 本学兼任教員 荻野 千尋

ハングル文字を学んだことがあり、基礎的な会話力を身につけたい方を対象とした講座です。日常生活や旅行で使える表現を学んだ後、グループワークを行いながら韓国語に自然に慣れています。これらの活動を経験することで、韓国語や韓国により興味を持ち、ドラマや音楽を視聴する際にも楽しみが増すでしょう。

※各講座のシラバスについては、本学HPを参照してください。

語学コース受講者特典

- 開講回数の8割以上出席された受講者に公開講座修了証を発行いたします。
- 今学期(令和2年3月末日まで)内に限り本学図書館を利用することができます(閲覧のみ)。

公開講座ダイジェスト 2019
跡見学園女子大学公開講座の記録

令和2年3月発行

発行 跡見学園女子大学

〒112-8687 東京都文京区大塚1-5-2

電話 03(3941)7420

FAX 03(3941)8333

E-mail d-kyomu@mmc.atomi.ac.jp

URL <http://www.atomi.ac.jp/univ/>
